

Nepal

1968

阿部

昭和52年度第1学

学科 時間	農 学 科		農 業 經 済 学 科		農 業 生 物 学 科		農 芸 化 学 科	
	科 目	教 官・教 室	科 目	教 官・教 室	植 物	動 物		
月	1	農村社会学Ⅰ 谷田 S209					作物生理学 岡沢	
	2	農村社会学Ⅱ 谷田 N2						
	3	農業不熟現象概論 谷田 S213	農業不熟現象概論 岡石 谷田 S213					
	4	農村社会学Ⅰ 谷田 S213	農村社会学概論 谷田 S213					
	5	農村社会学Ⅱ 谷田 S213	農村社会学概論 谷田 S213					
	6	農村社会学Ⅰ 谷田 S213	農村社会学概論 谷田 S213					
	7	農村社会学Ⅱ 谷田 S213	農村社会学概論 谷田 S213					
火	1	農業社会学Ⅰ 谷田 S213					農業化学 藤野	
	2	農業社会学Ⅱ 谷田 S213						
	3	農業社会学Ⅰ 谷田 S213						
	4	農業社会学Ⅱ 谷田 S213						
	5	農業社会学Ⅰ 谷田 S213						
	6	農業社会学Ⅱ 谷田 S213						
	7	農業社会学Ⅰ 谷田 S213						

高山草原

- Pitymys himemensis* シツキハクシツネズ
- Ochotona roylei* TF
- Soriculus caudatus* シツキハクシツネズ

晩帯林 (常緑広葉樹林)

- Rattus flavescens* シツキハクシツネズ
- Rattus nitidus* Eマツヤ ~~シツキハクシツネズ~~
- Apodemus flavicollis* Eマツヤ ~~シツキハクシツネズ~~

シツキハクシツネズ

- Rattus cha* Eマツヤ シツキハクシツネズ
- Apodemus flavicollis* ~~シツキハクシツネズ~~
- Pitymys himemensis* シツキハクシツネズ
- Dremomys lokriah* ハツキハクシツネズ

- Dremomys lokriah* ← *callosiurus*
- Soriculus caudatus* シツキハクシツネズ
- Soriculus nigrescens* シツキハクシツネズ
- Suncus etruscus* シツキハクシツネズ

Ochotona roylei TF

人家農耕地附近

- Soriculus caudatus* シツキハクシツネズ
- Soriculus leucops* シツキハクシツネズ
- Soriculus baileyi* シツキハクシツネズ
- Soriculus nigrescens* シツキハクシツネズ

- Suncus murinus* シツキハクシツネズ
- Chimarrogale platycephala* Eマツヤ ~~シツキハクシツネズ~~
- Mus cervicolor*

- Rattus flavescens* シツキハクシツネズ
- Rattus rattoides* シツキハクシツネズ
- Rattus rattus brunneus* シツキハクシツネズ (陸岳)
- Rattus rattus brunneusculus* " (陸岳)

藪草汁=ツル

- Mus cervicolor* ハツキ
- Rattus rattus brunneusculus*
- Bandicota bengalensis* シツキハクシツネズ
- Funambulus pennanti* シツキハクシツネズ
- Suncus murinus* シツキハクシツネズ

- Bandicota indica* シツキハクシツネズ
- Suncus murinus* シツキハクシツネズ

高山草原

シヤナクおきの
針葉樹林

暖帯林
(常緑広葉樹林)

人家、農耕地附近

熱帯ジャングル

- Mus cervicolor ハツカネズミ
- Rattus eha
- Rattus fluvescens
- Rattus rattoides
- Rattus nitidus
- Rattus rattus brunneus
- Rattus rattus brunneusculus
- Bandicota bengalensis
- Bandicota indica
- Apodemus flavicollis
- Pitymys sikimensis
- Funambulus pennanti
- Callosciurus pygerythrus
- Dremomys lobriah
- Ochotona roylei
- Soriculus caudatus
- Soriculus leucops
- Soriculus baileyi
- Soriculus nigrescens
- Suncus etruscus
- Suncus murinus
- Chimarrogale platyceplala himalayca

7210
1 Balajis, Kathmandu. Apr. 4, 1968.

Alt. 1300 (11) 1968

59. Totopani,

May 2, 1968

Alt. 1200m

129 Ramde

May 28 '68

1690m

~~Rubus chiloensis~~

May 3 '68

~~Populus 1100m~~

Dana pife 1400m

55-
56-
✓ 66- } 3102ft

✓ 20 1-74" Patan, Kathmandu Valley.
1900m Apr. 22 '68

34 10 Bistauti, Apr. 29.

✓ 119 1-74" Pokhara May 19 '68
800

✓ 149 1-74" Dunde E June 1
Alt. 3000m

Nepal 調査

1968

阿部 永

平凡社
世界大百科事典

亜熱帯林... タライのほとりワリクヒヒマツヤの向の低山
河谷にもみすれ、サラソウジュも主要樹木とする。
その上部、シワリクノ山頂やヒマツヤの南斜面には
温帯性カシ類が多く、その上はカシ帯、その上は
針葉樹林やカンバ帯があり、標高は3,800mで
森林限界に達する。

1000m~2000m間は耕地となり、米、トモロコシ
の、小麦が作られ、向山林はほとんどない。
2000m以上では森林が多く、耕地には
トウモロコシ、ソバが作られる。

主要民族。リンパー、ライ、タマン、ネワール、グルン
マール、タリヤ... ともに山岳丘陵地帯
にすす。ネワール・ヒルマ語系の言語を話す。
その上にはネワール系があり、シエラノは、その
1支族。

亜熱帯的を母所にはブーマン族をといふ
の民族も、起源のたかたな多くがカーストが
混在。タライ地帯にはグルン系などの
未開民族が下層カースト扱いをうけて居る。
(川俣田二郎)。

The Zoological Society.
35 Ballygunce Circular Road
Calcutta 19

Dr. B. Biewas
Superintending Zoologist, Zoological Survey
of India, Indian Museum, Calcutta-13.
Tel. address: "Zoology, Calcutta".
Phones: 24-4414 (3 lines)

宮崎 勲 TAKASHI MIYAHARA
PO box 283, KATMANDU, NEPAL.

Mrs. BHINDA S. SHAH
Under Secretary, Ministry of Foreign Affairs
バハインド

Issued on 26 Feb. 1968
Passport no. B020593.
Nikon binocular 9x35 no. 623071
ASAHI PENTAX SP body 1039201

TAKUMAR Super-takumar 50 F1.4 no. 1314832
Takumar 135mm F3.5 no. 34622
Tele-takumar 400mm F5.6 no. 1097230
NIKON-F body 6728354
Nikkor-S, Auto 35mm F2.8
no. 236427

旅行日程

3月18日 北九州市 戸畑 築 新和海運



4月1日 イト Goa 着 Goa 泊 港にはホテルなし。タグゼー2
10分位の所に Hotel あり

~~2日 Goa 着~~ ↓ ランチ

2日 Goa 着



3日 Bombay 着 (午前) 汽車の駅は Central 駅 と

Victoria 駅の2つあり。New Delhi
Delhi 行は Victoria 駅 の5番
の2注意を要す

同日 18:45 Bombay 着 frontier mail という持参



Allahabad.

20:55 着 泊。毎1か2

4日 " "

16:35 着 二かより North East Rail
way

5 Magaffapur

9:45 着 乗4か2

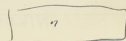
10:30 着

乗車の
馬車が 乗客の
全4名にのみ注意

Saganli

13:25 着 乗4か2

14:10 着



3月15日 15:10 着

リニタゴで ビルカンジまで行き
ここに泊。

6日 ビルカンジ 着



6日 カトマンズ 着 滞在

7日 } カトマンズ

各種手紙。ネパールの国内旅行準備。

14日 }

15日 カトマンズ 着

カトマンズ → ホカラ 向 各種調査
採集。取捨 走行をいせが。2週間
のキャラバン。



30日 ホカラ 着

5月

1日 } ホカラ 周辺

ホカラ 周辺にて調査研究。北部
山岳地帯、南部亜熱帯地方への
10日前後の小旅行。

29日 }

30日 ホカラ 着



30日 カトマンズ 着

31日 }

カトマンズ 周辺

カトマンズ 周辺にて調査研究、
北部ゴサインクトの北西末端部
南部テラウ地方などへ小旅行を
行う。2の向、山田隊長は
6月23日飛行機で帰国。

7月6日

7月7日 カマレス完

10日 } カルカッタ着. インド博物館にて採集品の梱封
17日 } 必要事項の研究, 文献調査.

20日 インド発

8月5日 日本着.

インド国内の地図 鉄道案内図は、東京銀座の
インド観光案内で17円50銭.

4770 インド人の内では0.5ルピー - 5ルピー.
外人の物価高くはおおむね1ルピー - 2ルピー.
(多くとも2ルピー - 4ルピー.)

インド国内での総費 1人 20ドル位は足りた;
1965年 Calcutta リア: ホテル 1日 85 Rs (3人分) 4770 7.5 Rs
坂本-7- 3人 3Rs
汽車の中 (缶) 11Rs (3人) 晩飯 (飯) 5Rs (1人)

荷物

box no 5 (荷物専用)

film (W & B)	#	18
label for baggage	200	200
dried fish (bait for mouse trap)		600g
seed of squash (")		700g
desiccative		1 bottle
preservative (borax)		1 bottle
toilet towel		2
toilet paper		2
peanut butter (bait for mouse trap)		2 bottles
tripod (for camera)		1
Chloroform		1 bottle
paper tape		12 rolls
benzyl tape		5 rolls
spring balance		1
insect repellent cream		2 tubes
insect repellent		2 boxes
insecticide		1
shampoo		1
head lamp		1
glass tube		1 box (95)
small bottle (empty)		1
sweter		1

trousers	1
shirt	2
sacks	2
spatz	1
ball pencil	30
pliers	1
label for mammal specimen	about 800
polyethylen bag	about 250
envelopes	100
roose leaf for note book	1
stamp and pad	1
ink	1
staples	1
gloves	3
string	1
mist net	2
portable chair	1
tweezers	1
gauze	1
rule (30cm)	1
string for fishing	1

box no. 6. 837. 524.

sleeping bag	2	.
air mat	2	.
weasel trap	2	.
mole trap	6	.
mouse and rat trap	100	.
pitfall	5	.
paper tape	6	.
gloves	5	.
toilet towel	2	.

3914 no. 13 1244260

shoes, dry battery uml 20, formalin o.t.l.
flash light with battery 1. label for
mammal specimen about 100.
Chloroform 40cc. water bottle. 1

no. 3

8 12

no 9

✓ color film 16



携帶品.

Wrist watch	2
Camera and the accessory	
Nikon F with 35mm lens	1
Asahi Pentax with 50mm lens	1
Takumar 400mm lens	1
Takumar 135mm lens	1
Photo-meter (Sekonic)	1
Air releaser	1
Remote controller	1
Extension tube with cap	1
Lens hood	2
Brush	1
film (Black and white)	
(Color)	
dry battery Um 3	4
Skimming kit	
Scissors	3
Tweezers	23
Rule 25cm	1
2m	1
Balance 200g	1
Stapler and staples	1
Portable radio	1
Lower	1

Knife	4
Cutter	1
Needle	
Pen and ink	1
String	
Pin	
Adhesive plaster	2
Label for specimens	100
Glass tube	18
Borax	1
Chloroform	1
Formalin	1
Polyethylene bag	
Note book	13
Sun glass	1
Soap	
Rain coat	1
Toilet towel	1
Flash lamp	1
Dictionary	2
ball ^{point} pencil	8
binoculars (field glass)	1
rat trap	
magnifier, rubber boots.	1
match powder	
, medicines, suits, shirts, underwear.	

- 大宮 達朗
- 田村 殿三
- 安本 器一
- 富沢 利雄
- 小林 成明
- 山下 次郎
- 有田 隆一
- 播垣 俊一
- 藤田 陽夫

札幌市大通り西5丁目、山之内製菓(株)札幌支店、
南5東1 北海道森林防衛協会
札幌市北4東1川崎鉄鋼KK
札幌市白石町栄通137号68(道庁学事課)
道庁総務部人事課
札幌市北26東5丁目
札幌市北17西7
札幌市北14西14
道庁総務部学事課課長

- △ 森 信也?
- △ 桂田 敏一?
- △ 田中 紀人?
- △ 藤巻 裕蔵
- △ 服部 晴作
- △ 鎌田 正美?
- △ 小畑 恵嗣?
- △ 畑中 文鶴?
- △ 阿部 学
- △ 安藤 清継?
- 松井 肇
- △ 松本 勝考
- △ 林田 恒夫?
- 村山 文記
- 川造 計太郎

札幌市南10西10(道庁)
札幌市南10西10(道庁)
苫小牧市表町18
美瑛市支路内 道立林業試験場 (中央区日本橋 橋町5 711-5171-290 林試部 661-6695)
道立農衛生研究所, 札幌市北37西2丁目
釧路市米町4-16
釧路市春日町3-28
余市郡仁木町8番地
東支路自見山下町5-37-3 若林森 林試部 鳥島大科
札幌市大通14丁目 札幌少年鑑別所
札幌市北6西20丁目
東支路 枝橋区 徳丸町162 富田 花
釧路市金帯町3丁目1番地
東支路 枝橋区 高田幸南 2丁目10-5 611-8051

- ②
- ①
- ②B
- ②B
- ①
- ①
- ④
- ①
- ①
- ①
- ⑤
- ②
- ①

札幌市 山本登代要組長
? 橋内 武雄?
△ 荒木 忠正?
△ 上口 政夫?
△ 茅賀 良一
森 榮次
△ 吉田 政博?
(武内 泰) 314-3119, 712-4156 338-4011
? 佐藤 操 市北北4西13
△ 阿部 幸 神奈川県横浜市中区小原台、防大112小(0468-413845 川中坂)
△ 安倍 匡 工川郡新得町町役場
? 太田 隆文?
中村 栄夫
島倉
小林
井上 聡
太田 札幌市点野内
阿部 知子? 広島県下田町2丁目3-1
畑土? 神戸市長田区平和台町2丁目15
△ 阿部 進一 入心一八 大徳館 草津町港區南麻布4-7
△ 林田 英二 札幌市白石区北郷1245
? 羽 寛 正信
工藤 昂宏
工藤 英幸
? 笠 智 雄
? 川 端 清見
? 藤 隆 夫

土庄	羽賀 20
岩本 15 博子	森 15
田村 50 勝五	井上 15
松井 50 隆二	小畑 15
松子 15 隆一	太田 15
明子 15 隆一	友野 15
中島 50 隆一	島倉 15
中村 20 隆一	藤田 15
藤田 15 隆一	藤田 15
藤田 15 隆一	藤田 15

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

尾江 定一

先にネパールのナキヤサギを調査に行つた川邊武男君に53
72N12

Madras. (1) DECLARATION FORM 500# 17000
(2) 付の. 22000

4月9日.
XU 1包. 3 RS 以下
付. 1包 10 RS. 以下

Madras — Calcutta 10 3~4本 Puri EXP. 46 hrs.
一等 100 RS. 二等 40 RS. 三等 30 RS.
Calcutta. XU 1包. 3 RS.
MIL EXP. 46 hrs.
付の. 22000

LYTTON HOTEL 14, Sudder St-16 23-2760
SURVATION ARMY HOTEL

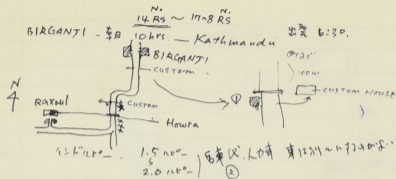
交換. (1) CHORIGEE ST. 10.25
(2) TOURIST OFFICE 10.10 — 10.5
(3) NEW MARKET. 10.5

135 = 100
17.5 = 100

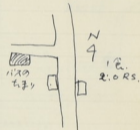
12.5 — 13.2

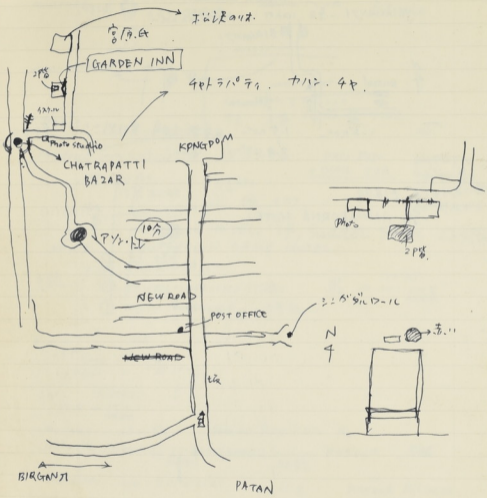
Madras — Calcutta SOUTH EASTERN R.
Calcutta (HAWRA) — SAMASTIPUR — Raxaul 3rd

Howra. → ENQUIRY. 16:25分 Raxaul 16:00
BIRGANJ
10:5 RS



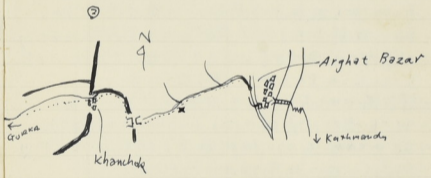
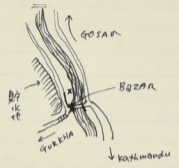
5. 大連館
S/O ANNA PURNA HOTEL.





• TERAM LATA 4里. 1/2里の madam.

① Trisuli Bazar



1968年

3月13日 札幌 11時40分 美特急に乗車。早朝の見送りをうける。一行は又乃田。後山。新町の3人が2次隊。先発隊の時にくすばの型木を見送りに。送新のカメラのライトをぶかす。

14日 午前9時25。上野着。先方。送新を社に訪ね。荷物を届かす。船会社の新和海運へ挨拶に行く。日航丸の川崎着は20日。24日出航という予定をきく。新和海運では。手荷物に送った1392の荷物の件で。主人と人のやり取りを11とわかる。手荷物は範囲。即ちリュック1個とその他の荷物という物を持ち。我々の理解では1個の荷物の大量持ち込みの手当で運べる範囲のものというものがあつた。このことをいふ。東京泊

15日 新幹線に乗って大阪に行き神戸で明土家に滞在。9:30 急行で神戸の向う(又乃田君は名古屋泊)

16日 朝早く川崎着。直ちに新和海運の川崎出張所に行き別送してあつた荷物の一割を受取り。

最初は又乃田。流石組の鉄河丸と同様。昨日鉄河丸も神戸着といふことになつた。手荷物の一割を神戸宛に送つた。札幌に電話する前の電報に日航丸は川崎着になつたことを知り急遽神戸に荷物受取りに行った。手荷物は一割を神戸に送り、残りの荷物も神戸に送り、神戸へ向う。

- 17 早朝 9:30 又乃田君と神戸駅で送新、同時には明日と3人で徳島に行く。徳島川島泊。水中翼船1時間半の旅は快適。天気快晴。寛し。
- 18 夜川島に着す。小笠島先11:30の関西汽船の神戸へ向う。
- 19 6:00 am 大阪着。又乃田君は大阪泊。阿部新幹線にて東京に行く。10:10 東京着。後山さんと社長の朝10:00に大使館に行く。先日録したテープを録音し、朝10:00に神戸の向うの船に乗り。Shah不在。室へ向つて室を見ながら急いで来た。かつ東京の。マクニは経路をたずねる。手帳大使館の日本人書記の話しをきく。手帳を返す。

20日 川崎の日航丸が到着する。10時 港に行き。川崎一航。1時向は向う。この船で帰つては川崎無き遊子。静岡の裕か合をきく。また、川崎一航に行き一緒にいれる。

夜川崎の泊りもいろいろあり最新の情報が。心配にいらぬ。Customの件もリュックとその他の小道具を届けた。taaristの場合にはあつた。肉を届けた。これを南に安心する。カトマニ。用ひは。これは。コナイン。この附近が調査地といふこと。

(船は24日出航。行き先 ~~神戸~~ はゴアからマドラスへ変更という。世にちうて著しむ)

25(月) 曇 今日10時頃 オキナワ沖を通過。
テレビラジオがよくはいり、田中海はわりど
ほとんどの船が。昼は五回通、夜はせずし
今日はほとんどの船も(せいぜい) 2-3回しに
白たので腰がすかなくこ困り
夕飯後 菜屑のリストを作す

26(火) 曇 8時台湾沖を通過
一日中流素太"11"を道したか夕飯も時半頃
台湾南端横のブリコン領の島~~の~~ ~~の~~ ~~の~~
Batan群島のBatan島とItbaya島の南を
通過。しばらくおりに島を見て来る。
Bridgeの上で世界各地の興味深い話を
聞く。船乗り達は文に詳しく話せば豊富
で、大変面白い。

27(水) 晴 ブリコン沖にほりさすか、空気が暖かく
羊軸シヤツ一枚で十分である。海上ではトビサ
か盛んに飛ぶ。14:30-15:30までトビサ
の写真を撮る。ツバメ1羽南に向って飛ぶ
気温30°Cで霧越帯に入りつつあるこが
わかる。夜はスベキで、お酒がたまに飲ん
どする。我々も船中のトビサ群~~の~~ 級を
出し、皆に配す。今夜は快晴のたけ星が
きん満ちた。

28(木) 快晴 南風強し。一日中無曇り過す。夜は星が満
ちに輝ききつ。但し曇り夜である。

29(金) 快晴 南風強し。今日はずいぶん田舎のリストの
Typingを仕上げた。夕飯は風もおそろい同がきつ
た。夕飯トビサ南端沖を通過。Bridge
で見張りを大に片とトビサに近すに27日
~~に~~ 干河には未軍シヤツ一枚船がトビサに
回して行ったと云う。この降水を通過する船は
はたすまるといふ。昼間は室内で気温30°C
一日中ランニングシヤツ一枚で過す。本日は
バドミントン"サ"を教わってもらう。

30(土) 快晴 風もおそろい海はお七やか。打合せの船
が数か多く来る。午中に荷物リストTypingを
完了。気温29.5°C(正午)。全航程約5000mi
の半を終了。夜はバタキで夕飯がきつ。
この日航本船船室がおそく(時速25km/s)、
今日一日で多くの船が追い越して行った。

31(日) 夕方 朝6時室内温度29°C 海面上は20°C
7時半頃アマサヤ一羽が船を付けて去るのを観察
11時50分 Singapore Strait 入口のHoreburgh
灯台通過、風力が盛ん現れる。こ水より
Singapore Straitに入った。無風。海面は鏡の
ように滑らか。正午太陽は雲上にあり自分の影が

マラヤ予防菜

Resochin
14月18(月)

ほとんどできなりの大陽光線は強いが海上で強い風が吹くのでさほど暑さを感じない。2時過ぎにシンガポール沖を通過。大船をビルの左並木シンガポール街並みが遠望できる。多打の大現船が港附近に停泊中で、Oil Tankなども望見できる。港近の島小島にはヤシの林や、別荘らしい建物や家が、（木が少なく、木の葉が少い） 永く昔の村や川筋も見える。シンガポールは自由港でありたためての警備は大したもので、並木並木には、車掌もつより大車いようである。シンガポール海峡が経るとこの小島(3時通過)には灯台があり、~~火台~~ 火台のまわりにはヤシの木などが見えて、ここを通過して西に曲るとはいは Malacca Strait である。

シンガポール沖には、大現船のほか、釣舟で魚を採るモーターボート、ヨット、なども数見され、4時過ぎにアジア大陸の最南端といわれるマレー半島南端沖を通過する。マラッカ海峡の海の水は緑色で、南シヤ海の青色と比べると濁っている。

夕食は7時内のシンガスカンでウイスキーを飲む。8時気分。6時、室内の気温31.5℃。

晴。朝4時吹 Kuala Lumpur 沖を通過。その後 Malacca Strait を Sumatra に沿って西行。9時室内 30℃。我々の部屋は2階正面にあり State room (特別寢室) で、最も涼しいところであり、我々の部屋の前には便所では 35℃ の暑さである。一日中ほとんど窓を開いて、少し読書(英文紙)をしたのみ。Malacca Strait は、貨物船、タンカー等の往來がはげしく、夕食後 Resochin 2 階の 2(火) 階まで、屋敷には Malacca Strait を迎えて、イント洋にはいつか、~~（おき）~~ 船は左右のゆれは、持前の船になつて、~~（おき）~~ 船が乗りゆきおうになつて。今日は松本清張の「獣道」や「週刊誌」を読んだので、ほとんど何もなかった。船の曳船は10日以上の曳船の船の船のゆきは多いになつた。

夜12時吹で室内 31℃。夕食後再び Resochin 2 階 2(水) 階、イント洋の真中であり、ゆりかきがあり。午後甲板にはわか作りの部屋が、南の壁と共に船をいむらう。夜中夜、ネズミの曳船をいむらう。Resochin のセロの隅に、おきおき不眠

4(木) 晴。昨夜はスロウカがあり、朝はかきり涼しい。その後も室内は 29℃。一日読書で過ごす。3時吹をロンの近くで、タンカー「明前丸」14万トンか

Resolutionのせいと念が不推。この薬はかきり
胃腸に薬が有るものと思ふ。このところ毎日夕食
時分は。On the rockからせよいあけんとす。

我が船の舟のオの橋を追い越して行く。本船の
スピードは14 mile/h. であるが 明前丸は 17 mile/h
位だろうという。ポルシヤ湾に行くのであろう。

夕方から夜半にかけてセイロンの南を通過。
視コロンボ行のフランス客船と出会う。互に信号で挨拶。

船員の多くの人達がインドでのりこを事情
を南のこきりかになんか大変なところらしい。
海に船がついた場合は盗難がはげしい
ので少しも油断ができません。毎日
水かきの時針をの池をとることに
しよう。太窓をたけておけば棒をたてて
洗滌物などもとて行く。税関来た
全く油断がなくなった。元々の税関
吏は何かと故意に難くせをつけて
commissionを公然と要求するらしい。上陸すれば
物乞いが殺到し、いつまでも後をつけ
ては来ない。全く相手がいないことが最もよい。

5(金) 晴 西風強し 30°C。夕方インド半島南端沖
を通過 20から北上。一日中流着その他。インド洋内。

6.(土) 晴 風はあまり。海はあちやか。いよいよ。インド半島
西岸を北上。仏力の磯に出会う。インドに近づくに海
水の色まで汚水色をしてい。陸が果てないほど
離れていのに海水は blue でもなくまた green

でも白い汚水色をしてい。昨日あたりから
夕方まで再び胃の調子がよくなり食欲も正常
にもどす。大陸に近づくに、やはり暑く。毎日パ
ン一枚で過す日が多くなった。
夕方6時すぎユリカメ翼羽の似た鳥2羽が船の
後をすべとつけてくる。



いよいよ航海最後の晩さん。
今日もまたオンロップでよいあけ
になる。今日はやや涼しい感じ
がすがすがしい。夕飯はさほど変
わらない。

夜は11時吃までかかて milk of aberrant form
の報告書原稿を書き上げ下。

7(日) 晴 7時半。インドに近づく見え、10時 Goaの
Mormugao 港に到着。港内には多数の
ユリカメと黒カメ (bill 黒色) が
いた。10時和吹港内にて一時 anchor,
船にやってくる新和海运の agent,
custom officer と passport を見せたり
明日の Bombay 行の船のことなどを打合せ
明日12時客船が出発という。
その後 Sampan 4隻を一対に陸、不頭

持の野菜や果物の甚しい。(インゲルの
豆)な。サヤ豆もマメも有った。我々の
マシーナのはいりとマシーナ。master
置はないかと甚ん声がかかた。
土産物の番頭はたゞに日本語で商談
かして。この港にこの日本船が一番
多いので日本人は多い者である。土人
は切った後、後山ははらり棚を10R
近くも買。しかし敵もまもりながなが
は引かない。土人屋は。日食の
船員が5-6人 甚んは切った。海
のりやサヤ(カマクラん?)を買った。
529位は前にもまた降は15Rsもして
いたが今回は最初7Rs. 最後は5Rs
24有った。またサヤ1粒と今22R
で100Rs 24買った船員もいた。
4:20. 4人でタクシーに乗る。Marmugao
に帰る。4人で3Rs. 本番は1人0.5Rs
らしい(2人の場合)。船の夕食後6時
着岸。
Vasco 2は。カマクラスタンのおやいの時
止められ、椅子を出して椅子休んで行け
たので(1は)く休んでいらしてマシーナはとうた

というので、いや結構とこわったが、
ながながの豆をさすおやいの。「いや、
あなたかたは方客さんだから」といつか、
このマシーナを2本買いたせ、25R
してこれ。全く予約していらしたけれど。
うしろかた。おれは後山はから7人にも
1本やつた。2。「232」あなたはカメラを
持ったのか」と備にこれとマシーナ、よく聞
いてこれとばかり「おれはComplex
を持てた」と肉懐をうたいてこれ。
何と新世の誰かか、船長とマシーナが
本に日本軍にも行くというところであつた。
7人にもやつたとおれに。日本人は nice
people だとおやいのといいた。
夜7:10に船長とマシーナの Vasco 7
行ったか。途中の道路(2R位)にはほとほと
切小田をく通行人があり、10時才更帰
降にもやはり多く人が道路を歩いた。
一本路はこんな夜おやいの。マシーナは
いれられた。そう云えば子。甚んは暑い
昼間より。況んはしやまつた。おや
街の人お夜のおやいの。況んは
昼間しやつた。店も夜の15時位まで

かま(15)のあつた。ボウンスといふ名が
しつこくつとせよと云ふや子供も夜の才が
まかつた。夜10時すぎとも女子の街や
港のコンクリート上には無数の人肉が
漁師がマグロのようにつら寝してあり
イントにおける人肉のまさと、食したを改
めし思い寄つた。この一歩ではスポーツ
カーを弄りまわして人肉もいた。えん。

Uccello はぶくたきを町なかで、たりの
船乗りの集まりとてはすまわさあり、
lucky という本港の土産物屋、本港の
ハー、木島屋、Seamen's club などの
行けば、いつも見なすた敷いお合つた
みんをのたひのひやかしをかす。買物
もつた。

2の日は再び船に帰つて泊つた。

12時00 茶 (Marmugao 茶 - 眠るん
R2 は Panjim 茶のこともあつた) の汽船に
乗つて Bombay に向つた。日録の人達
はお社をいつて8時30 下船した。

船長 梶原与成、一等航海士 新田光彦
(gentleman)、機関長 池田外喜雄。

一等機関士 村中元田 (世界各地の
面白い所をまわつた)。通信長 岩村巖

Bombay 行の船は 1st class 175.00 Rs
2nd class 54.00 Rs (これか Cabin)
3rd class 18.00 Rs (Deck につら寝)

3rd class の Deck は満員で全く寝たない
ことの上なし。余りおぼんの上一杯飯を
盛り、~~せん~~のカレー汁と海かのおさし
を食か念事してつた。

味同かなか、たの agent の

60# を交換して change してつたか
公定レート1# 1.5 Rs 2 450 100-

2の内、船賃 2人 2/50 100-。残り 300 Rs
のうち 100 Rs を船山氏に持つてつた。
1st class の部屋は、なかなか快適であつた
か、日録の人 State Room より少し高
い程で 2 bed. 洗面所、お下は浴室。
お下は浴室は Cabin におつた。お下は
たの 3rd class につらつたりつた。
2. この部屋かお下はつた。お下は
1st class には 2人か人達の女性は

8 (A)

Resochin
Goa (Marmugao)
Bombay

死体焼場の取扱に行き。博物館には
佛像その他、史料的遺物が多く、18-19世
紀のヨーロッパのガラス製品、石の刻んだ
ヒンズー文字。厚い銅板にきざんだヒンズー文字
(教典?) 竹板にきざんだヒンズー文字など。
西洋絵画(外帯は大きなもの)、動物部内
では哺乳類はインド虎のまじりに大型の獣類
鳥類 - シカ鹿, サイ, クマ, カシ, オオウミウシ,
ハリネズミ, サイヤウウの剥製と羊の骨を手に持
持も、ヒンズーの多粒(種)の骨を、奥の剥製
骨と組み合わせた。大型哺乳類は厚い皮で包

博物館見学後、マジュマハーの Hotel で宿
主人と夜食に太田、川田氏とわかれ、駅に
行く。18.45 Victoria Terminus 発 ^{down} Calcutta
mail - 一等寝台に乗る。ききない
かきき、(何とかゆけり)。夕食をボウイの野菜
せん (Vegetable) がなかなかいい。
インドの汽車は寝台感いもたてり、リニア
距離の seat が、何となく毛布の何もない。
インド人は特製の sleeping bag を持
持している。

12(金) 朝目をさすすとインド内陸の農村地帯で、
夜中 Mughal Sarai 著
夜々とした農村地帯ばかりで、雨が乾期のた
め、農作物はほとんどなく、こゝ一部で、牛
の乳搾が行なわれ、牛乳を搾る。
正午、汽車 - 一等室内 39°C、窓の外で 42~3°C
1かし、室気が乾燥して、この汗は流す
比、乾燥のいさぎよい。昨日作凍く、少し暑
い。(裸で)。一日中同じように乾燥した
農村地帯を走る。夜 23.55 Mughal Sarai 着
乗りかえ。一等綜合室で 2:50 寝、その後
8 down に乗りかえ 6:31 Patna 着。
この内、インド人と色々話をし、日本のこと、インドのこと
など、同室のインド人は議論を好むのが好きらしく、
長作の角あきを添はして、昼時の議論は、おもしろ
い。同室の 1人 Bombay のサリー高を
やつて、K. S. Shah さん、サリー高は、
Silk, ナイロン等から、絹が最高で、
高は Varnaras のサリーがインドでは最高で、
Shah さん、ナイス、絹のサリーの出入り
は、途中にある。ナイスは Mughal
Sarai に乗りかえ、西へ 6 miles。同室の 1人
Bombay の、おもしろい。同室の 1人
S. R. Singh 電気高の大変物知りの政治好
好

見大鳥 Black Prongo, 軽妙した麗おの折みあり
温地には白サキ, 小さな ~~マント~~ 中, ツル

存在物 何れもまわりを伴って居る。例をば中立主義の如きもの。no policy
にすぎないという。インドの礼一草もこれ
であった。世界情勢、日本のことなどもよく
知っている。大衆親切な人で Mughal Sarai
で乗りかえ時、我れがため寝るに
不得に40分は寝るに過ぎぬ。

13(土) 早朝 6:31 Patna 着。Single 車か。我れ二人に
一等待合室に待つ。我れは自分の
家の帰りの8時の迎えに来るとして帰った。
待合室で Morning Tea をのみながら待つ
のは8時頃 自らの車 (ambassador) で
来た ~~車~~ 中、カニシス川 渡船場 まで
行く Muzaffarpur までの船。汽車の
切符を買って来た。代金を拂おうと
したところ、ついでに 50 円を受取る。
船の主人は、帰りは是非乗車、幸に船は
はつかん 川の 渡船場 まで戻って来た。
川を流る Sonapore 駅の引込み 駅の端
で待つ。汽車に乗った。3等切符を買
いた。一等待合室に乗り込んだ。
Muzaffarpur まで汽車を乗りかえ Sagauli
行きに乗る。Sagauli まで乗りかえ

大鳥 Black Prongo 子し、インコが校(緑色)
上空を飛ぶ尾羽赤い鳥インコ? - サンショウクイ
のうを和び、トビ。 House crow. カツキ? マツカ? 等。

Raxaul には夜暗(赤い)着いた。
駅は待合か何かで夜暗になり、ホリを所
かトビの行きハスの切符賣りか、せつせ
せつせ切符を買わされた。一葉席。(一番前の
運転手の方の席) 18ルピー (100ルピー
24ルピー) の支拂いはインドルピーでよい。
そのほか、荷物代金として 5ルピー追加した。
更に 5ルピーのチップを払った。
また、切符賣りか ホテルの案内したか、ホテル
といつても小さな Tourist lodge で一
晩の宿をせつせつと 2 泊した。待合
中の夜暗の中、ラニの下で夕食した。
長い車中旅行。ういをたがたか、
せつせつういをかきつく。いかに
米でバサバサした米である。24 時
朝か、果物と飲物(茶)だけであつた。
ういをかきつく。車中ではインドの collage boy
達といかに黄色い顔をして歌を
うたがり楽しい時を過ごした。

14(日) 朝 6 時起床。6時半にトーストと fried eggs
Raxaul で朝食をとり、Raxaul から 4 時 45 分
Bihar 祝園と check post に行き、祝園の男をたが
Kathmandu 起いて、平流をたが。危国境といつても
出国の

本川辺には大形のセグロセキイノ一種、ミンサザイ
 等がみられ、夜はヨツバカが鳴く。
 非常に乾き、緑しいこのヨツバカミのいりな所は大
 変少く Water garden の近くの小川沿い
 はワナ16匹、小ハサミ1匹、キツノ地近くの
 石垣沿いのワナ7匹、川辺に6匹をかけた。
 本川の上にかすみ2匹を落とすか5時
 頃かけた。周囲にはワサミのキツノワナ
 等が散見かかかった。(かきワサミは見た所
 には3匹かかっていたのか、はずす向に1匹か
 逃げ、2匹採集。他にも大なる穴を掘って
 逃げたものがいるらしい。ワサミ^{ワサミ}かけた
 周囲に木かかす。5~6時頃には最もみ
 たりらしい。この付近は雨期に在りはネズミ
 も多くなると思わす。
 川にはウグイスの鳥を数匹、魚かかす
 みる。

April
 (全)
 Godavari
 朝3時頃起きかすみ網を曳いたが(石も
 かかっている)。朝ワサミを見逃した。結果
 Suncus 2, Mus 2 (1くわの塚)がかかれたのみ。
 昨夜のウグイスは2匹はこれかかたり、残す
 スグツケ。鹿の舌いカサギギ^{カサギギ}一種を見す。
 午後一時頃の採集を(けなり)。蛙を採集。
 黄色のセミも採集。夜にはホタルがみられた。

新たにキャンプ地周辺の採集、水流沿い
 はワサミをかけた。この付近には大なる森林や
 灌木林が一面にある。家畜(牛、水牛、ヤギ)
 を放牧場の下草はローンのような草が
 いる。本川をめぐり乾燥してワサミをかけた
 場所がきつめて少く、潮流や川沿い
 には湿地(湧水)の周辺しかワサミを
 採集できない。本川、ネズミの穴もその付近に
 はない、また少ない。森林中も下草が
 ない、地味は明るく、落葉はほとんどか
 かりぬえて(まうので)落葉層がきつめて少く
 ワサミを採集できない。
 ワサミは夕方6時45分~7時10分たけ
 採集しにかり、川沿いの上にはかすみ網で
 1匹のキツノワナウグイスを採集。網の近くで
 逃げた(たり)、かかすものはね返って逃げたもの
 が3匹あった。網の前面に木をたてておいた
 よい。
 鳥類はゴジウカラ、カサギギの一種、
 福色の大型ツグミ(採集)ヒタキ(採集)等。
 ネズミのワサミ採集中カサギギ1個を採集。
 隙間は2ヶ所中成層があつたらしい。山頂に
 は蒼さず^{蒼さず}学校、寺の付近のみ採集する。

20(土) 本月は一日中キャンポ地付近で過ごした。

Godavari
Kathmandu
ネズミは *Rattus sp.* 2種類(腹は白い巻尾)が農耕地の中を流れる溪流沿いでとれる。溪流の部分のみ灌木が殖えている。湖に近い灌木林で、刈り込まれ乾燥している草もほとんどない。したがってこの湖に近い溪流部分のみで生活しているものと思ふ。比較的大きな流水(川幅4~5m)の付近は乾燥と下草がほとんどない。この溪流に近づくのは全くと水がない。キャンポ地付近の疎林(下草ほとんどない)中の湿地帯で *Mus* 1頭を採集(この部分の樹木の実は果物でいたるわりのつとを食した)。川(幅4~5m)のウグイスに似た魚を採集

種類は比較的まれから大きなものは少ない。水温15°C 気温25°C(午後3時)。魚は2~4種らしい。水中にはオタマシヤクムが少い。また寺の山門前の溪流沿いのドブの中に小形の2枚貝、セル形巻貝、巻貝の3種を採集。また疎林中の落葉の落ちたやが湿った所に平石巻貝を1個採集(19日採集)寫生図を3個所にかけたのび+0種12個体が採集された。サクラソウの実がうけた所

は川沿いの湖にはウグイス類が採集された。また川沿いの木が、コハスグ1羽もとれた。疎林中の川沿いのものは fire breasted flower pecker (種名不明)、小形のキツツキ、グレストの鳥から、rose finch 等、ヒンズイ、セニダインツグイ等、等々と採集した。

全身が黒い羽の一部が黒い小鳥や全身黒い羽の黒白の斑紋のある大形セキシキ等が採集された。

採集した鳥は乾燥園で乾燥させた。採集した鳥は乾燥園で乾燥させた。

今日は土曜日でこの日の休日。日曜日は平日と違ってある。幸いにはお祭りかありまたヤキか一頭、小鳥によつて殺された魚を佛像のそばにお祭りかされたという。終山の一部は観望。感嘆した村人が涙を手に集めた。夕方に手ランローバーが遊園地まで Kathmandu に帰る。夜は1時頃まで川沿いの鳥の羽を採集した。Godavari 付近ではウグイスのつとを見かけた。また小形のセキシキもいるという。

21(日) 今日午後、市内の寺、バザール等をまわり写真を撮る。Kathmandu とる。カメラで市内は自転車かあつた。一周は容易で、街の大きさは平頃である。一番の繁華

街は New Road 2:22 は車は道の中央線
 の 駐車場 = 2:22 を 2:23 にし、あいかわすず牛か
 道路を歩いている。道路中央のねえいって
 2:25 にかさ。本日は道の中心部の一部の木の
 しかまがわった。又方西の Garden
 Inn の庭の 2:30 網をかけると共に 2:40
 北の川道の プラッシュに トロハサミ 2 羽をかける

22(月)

Kathmandu
(Balaju)

朝 Shortnoosed fruit bat (*Cynopterus
 sphinx*) 3 羽が 網にかさこわったが、
 トロハサミは餌のえさかたのみ。

今日は、王宮の南の Balaju に 2:40。9 時去
 9:30 始り始り。公園附近では Robin
 redvented billbul, bluethroated herbet
 センタイアインクイア, common myna 等を見
 100m 松の森林 (25m 以上) では ウンクイア
 のみ。200m マツ、広葉樹の尾根では
 ツバキ、~~ト~~ spotted dove (鳴声 ~~クク~~
~~クク~~), vulture 3 をみる。

頂上 ~~200m~~ 附近では 金魚草と連の小鳥, Drongo (鳥),
 Firebreasted flower pecker, flycatcher
 キジバト, ツバキ, センタイ, キツナ (鳥毒, 背で好)
 Black bullbul 等がかさす, 尾根にかけた
 網には Black bullbul 2 羽がかさす

9 時半 吹雪り始り, 正午には 頂上へ行く。頂上
 4 時半には 鳥の 3 羽を 2 羽で 通過した。ト-42
 葉と思われ, キジバトの 3 羽を 2 羽

頂上附近には 広葉樹林があり 南の斜面は
 下草が 200m 以上あり 2 羽か
 以下 プラッシュがあり, 2:25 の ト-2
 ドングリを 集めて 食べた 跡のみを見た。しかし
 水常の 乾草に 2 羽。尾根に F. ウンクイア
 2 羽が 多く落ちて 2 羽か。いかに 2 羽
 1 羽か 2 羽か。2:30 網にかさす 2 羽か 2 羽か
 さした。持帰りは 北斜面から

夕方に 途中 ~~200m~~^(1300m) 附近の 広葉樹林にて
 Rhesus monkey 1 羽を見, 4 羽か 下
 広葉樹林にて *Plantjac* 1 羽 (角なし) を
 見。頂上附近では 2 羽の 葉を 2 羽見たと
 かなり 2 羽か 2 羽か。また 1 羽か
 も 2 羽か 2 羽か。 ~~200m~~^(1300m) 附近の 尾根にかけた
 網に Black bullbul 2 羽を 捕獲。

Garden Inn の 庭に 夜に 2 羽か 2 羽か
 を 数回 南に 2 羽か 2 羽か 2 羽か
 夜 8 時頃 尾根に 2 羽か 2 羽か 2 羽か
 かったが、11 時 2 羽か 2 羽か 2 羽か
 fruit bat 1 羽か 2 羽か 2 羽か

23(大)
Kathmandu
(Balaju Khola)

22日夕方より余りかかす。庭内でSpotted Owl 1羽採集
朝6時頃には雨が降り、今日は一月中曇りどき
昨夜かけたワナ3組のうち2組にシヤウネズミが
かかす。午前中はコウモリ、シヤウの捕まわり。
午後は市内北部の河堤防ブッシュに大形リナ
15をかけた。この川畔ブッシュにはネズミ(大形)
の通路や穴が多数見られた。またここへ午後
4時頃 Small Indian Mongoose 1頭を
見つけた。先日午後夕方の毒と思っていたものが
これの毒であったらしい。また昼前には正富
さんと共に Annapurna Hotel 前の民家屋敷
内にある大木の下の穴に下つておウコウモリ
Pteropus giganteus の写真をとりに行く。
面白いで翼を捕まえたものや翼をひらかせたもの
がある。夜7時頃庭内の bush tree の花をくいに
オウコウモリが集まってきた。(西側)

24(大)
Kathmandu

庭内のカスミ Spotted Owl 1羽採集
しかし夜にはまた2羽の鳴声かきこえた。
この2羽は面白いものらしい。
昨日かけた Balaju Khola 河畔 bush のワナ
で Mus sp 2頭を採集。河原にはオトリ
sp (24トリ大), ハゲキイ sp. ヨウキ sp (小形)

を見す。

カマンス 付近の豊産物はオウコウモリ (少数、現在採集
つぎ(最も大面積の下つておりや色ついで採集)
シヤウネズミ(赤、小形、比較的よく採つていて現在
収穫最盛期)、タマネキ(小形、白、赤あり、収穫期
で路傍で多数採つていて)、ソラメ。(収穫期に
近い)、カリフラワー(多く、収穫期で市場で多数
採つていて) トマト(小形、赤、市場で多数採つていて)。
赤紫色のダイコン等。

路傍にはワトコ sp が比較的よく、山には Magnolia

も見られた。

午後はつとてホカウ けきの荷物を仕分けし、
夕飯は庭内のジビエスワン鍋をやり、シエル
等と一緒に鍋をつつく。夜は11時頃4羽の鳥が
刺殺された。昨夜も午前2時頃かかした鳥の
刺殺したのをやめたので少し疲勞がた。

25(木)
Kathmandu
Pokhara

朝4時30分起床。トラックに荷物を積んで空港へ。
6時30分発の飛行機に乗る。大量の荷物無事に
積むことができた。約45分ほどホカウ着。ホカウ空港
は ~~5分~~ 5分とした車庫で滑走路はジャリ。路の
ようである。元々この DC-3 機は比較的スムーズ
に着陸。飛行機のさくには A-42 がかかっていた。
近くの Annapurna Hotel (といつても平屋の小屋の)

お茶) 東の丘物にテトE 隠す。パンの~~朝~~朝食E
ヒリ近の湖の方で(7c. Camp site) 付近の農地
には White Scavenger Vulture が多く、写真を
とる。その他 Magpie robin, Black-headed Shrike,
Myra. 等の写真をとる。Kathmandu 郊外の(外)
などは 瘧病^{(PR) 近のその}を~~い~~た。かなり近づくことには
ぞ。よい写真がとれたものと慰むる。

そのせ yellowcheeked tit. コビウカラ (腹はげ茶)
ビンズイ。オ-42ウ。真黒のヒタキ (羽の白い羽髪),
Tree sparrow. House sparrow. 等々うは
非常に少ない。

ホカウは標高 800 m ほどにすぎに 暑い 正午 日陰
で 35°C. 湿度 25%

湖の近くには 白い^(イ)ヤナヒ, カミヤナヒ, ~~●~~
Blue-throated herbet (多) 2種
又万田君が小蛇ついで 2頭を産卵卵もらつて
来る。これはさあめて小蛇いこうモノで 木穴に
いさしい。

夕方 キャンプ 地 附近に カスミ網 2枚 E かけり。
この 附近の 各個人 の 所有地 には 高さ 1.5 m 位の 石垣
で 囲まれ あり、農地 は ほとんど 作物 が ないが、
現在 トウモロコシ の 葉 が びこり 所 が 多い。
これも 家畜。牛。faffano. ヒツジ。ヤギ に よる over

grazing により 草 厚 は 年 々 少 くな り、草 が 少 くな り 24
時間 の 2/3 ほど 草 が ない ところ を 訪 ね、農地 を 囲 った
石垣 附近 や 畑 の 中 の 石 稜 附近、また は 農地 の 向 前
先 之 川 の 竹 の 小 池 附近、人家 周囲 の 井 邊 へ。

Camp 地 附近 の 石垣 沿 へ 及 び Annapurna Hotel
の 建 物 附近 に 7+8 匹 を かけり。夜 時 頃 石垣 沿 へ
の 7+8 匹 を Muo へ 1 次 採 集。

本日 は 夕 方 には 雨 が 降 り せ り にな った が、は じ め
と 暮 れ 程 迄。又 夕 日、松 林 君 達 は 昼 間、湖 で 魚 を
と 釣 っ て 来た。2 種類 の 魚、うなぎ を 釣 っ た といふ。3 種

26(金) 昨夜 は 大 雨 雷 を 伴 った コール が あり、朝 方 時 吹 毛 状
Pohhara ば ば ば 雨 が ふ っ て いる。石垣 沿 へ にか け たり して 更に 1 級
Muo を 採 集、しかし 850 m 7+8 の 中 2 個 紛 失、カスミ網 には
Golden Oriole, Black-headed shrike, Redvented
bulbul, Crimsonbreasted herbet, Indian Roller,
ヒタキ 等 (白黒 鳥 = げ茶) 不明 鳥 (bulbul?)

午 前 中、湖 の 夕 方 の 下 へ 昆虫 採 集 に行 きた 2 本 甚 敷 採 集
正 午 頃 から は 昨 日 同 様 ほど 暑 くな り。

湖 の 下 流 地 域 の 岩 の 傾 斜 は 約 西 下 傾
の 農 地 (標 高 50% 頃 深 さ 10~30 cm, 乾), お よ び
45° の 急 斜 面 (2 日) (日本 四 国 の 松 林 の シダ 林 似 似)
赤 土 地 に 7+8 を セット。また は 農地 を 囲 む 石垣 沿

ハルモワチをセツト(ネズミ用及び下バサミ)。
夜10:30 吃ちの鳥の刺撃。カツラ(カツカツ
と音)の一種(Balaju といふのと同じ)が鳴く。

27(土) 朝4時半起床 Annapurna. マヤゴヤリの山の山頂か
大草を411に見た隊員(同)の歌声をちやうど其にカ行
に似ぬ。タム下流岸(岩の岸で山頂から多々あり。
イラクサや小灌木が一部にありその部分では約50%
種多(空度小)で Mus 2, Rattus 1, を捕
石崖斜面下部の干林種地帯(高さ5~10m 約50%
種多)の先を石筋で Mus 1, camp 地帯
近の農耕地を囲む石垣(小灌木疎生帯小約
20%) 乾草)の Mus 2 を捕獲。ここにはイタチ
又はワグヌのフコヒ思ふが、2匹のウツ
チのビトラバサミを1匹しかつかず。

湖附近に vulture 一羽(全身にケチ)を見
り降虫全隻 Annapurna Hotel の camp 地帯
を突 Taubeche の山頂に2羽。隊員各名
にエール105% (サター-ラクハ(10Rs/day) ミニ(9Rs)
(7Rs) Kitchen boy 2名(各8Rs/day) おまひ

Porter 名合計 名の caravan であり。
ここから約2 mile の所をちよホカラ ハサミ
を通りぬける。ハサミは手にはるものを賣つ
たり、何か作が法がある。

ハサミの街には木が好む草花があり、この付近
では Common myna が多く、Jungle myna
は少ない。House and tree sparrow は、木に
大草が多い。Magpie robin は、Blue throated
berbet が多い。フシアカツバメ、小形 Swift 等は多く
Swift は軒下の壁面に112(ニトリ)の羽を付けた
トツクリ状の巣(黒い)の巣を建てる。カツラ
トビ、chestnutbellied nuthatch 等も多。

ハサミを過ぎ、南側の河川谷地と谷の逆側
(小灌木が多い)では drongo, あり。

ハサミから約1 mile の所に都落あり。
ここには Tree sparrow の多し。House
sparrow は多し。Common myna,
ツバメ、黒ヒタキ、Black-headed shrike 等
がツバメの卵の卵 Tarshi Palshiel の卵を
中食。10~12時 この付近には white scavenger
vulture, 大鳥のワシ, common myna,
ツバメ、黒ヒタキ、~~or~~ Oriole, black-
headed shrike, Magpie robin, drongo,
Blue throated berbet, Spotted dove,
赤ヒタキ, redvented bulbul, Tree
sparrow 等を見たり。ここから上には House
sparrow は大草が多い、多くは Tree sparrow

ハルビル
E. Himalayan
C. H. ?

Tarshi Palkhiel の新築岩壁の Terrace
に white scavenger vulture 1 羽あり。
ここを過すといはるは木の多い部落の中の
道かと思われる。その附近には Magpie robin
が多い。この部落は Yangche 部落。

この部落を過ぎると木々が川底一面に乾田
かひしけ。麓の田の中を 1 km 以上上りて
Swingket 部落があり 2 時過ぎると到着
村は 22 Camp. ここには茅屋か 2 軒あり。
千のツツが口への隘路かとのか金鈴の音を
ひびかせたかきやうである。

川の左岸(南斜面) ~~上部~~ 上部の小部落か
ありその附近のツツイ樹の附近には Redbilled
Magpie (黄鳥) Bluethroated ~~tree~~ herbet.
~~樹~~ やや大形のまぐさの herbet. spotted
dove, drongo, common myna, 黒いツツ
などがあり 4 匹は 2 頭は Rhesus monkey
もみつけた。トウモロコシの苗は 4 株

斜面の畑の石垣沿いは ~~45°~~ 45° ほどの
急斜面(シタコマキ、ヤカヤ等のアワビ
植込 80~100% 密な中、乾)のり上りか
日本カツウと同様のもの声も聞かれた
夕方夕立が来ると強い風が吹いたか
はらばらと降った程な。

28(日) オキサヤンに Swingket を 6:30 出発。川底を約 30 分
Swingket 芽の 2 斜面にヒヤツ。ここには 2 軒の家があり
Hodi Khola 北斜面(右岸)には 1 軒の家が空気に掛かり、下岸
とヒツコヤコヤあり落葉。湿度も百パーセント
である。ここはツツイツツイを見つ。その位置高さは
ツツイの姿を見せしむ (1150 m)。この村は村が 2
1200 m 付近にツツイの家かあり、耕作はこれ用け
ている。この村を登りつめた所が Nanda ra 山で
1400 m 8:20 着。ここから IF Annapurna,
Madhapchhari が一部分を占めた。大部分は雲に
かきつら。また南東方向に Pokhara 湖や飛行
場が遠望できる。トビ、ツツイ(単にヒツコヤ大ヤツ)
Tree sparrow, P. S. 木のない耕地か一面に
振動あり、その中の道を歩く。日走か 3 匹と 1 羽。
途中虫等の群集を (木か) 歩いた。歩いた。歩いた。

Himalayan
yellowthroated
warbler

上り
Buergeria
semicarpifolia
下り
Q. lamellata

Kangure dewari という山麓の部落で昼食。
1650 m。この山麓を 2 時 2 分 北斜面にツツイの村
村か 1 軒あり。ツツイの村(日本に似た
か黄色のツツイ) 2 軒かアツイツツイか
いのを見つ。この斜面には水のある溪流
が多い。これに 2 時過ぎると南斜面に下りて
再び耕作地か開け水牛か多数放牧せ
ている。この地帯 1560 m 付近に部落 2

日本を代表する種と同じと思われ、ヒメオドリコソウなど
 多。またこの付近の樹林は耕地にはビントウ
 が多く生じ、思わぬ鳥が空を飛び回る。この
 あたりには Common myna は22にも多く、
 Drongo も見られた。22は Tree sparrow
 (Modi Khola) のアホコトから大まな谷底の下り @ 1050m の
 川辺でヤブ (3:30 着)。この下り坂は 500m
 位の高低差があり、道は急な (45° の) 傾
 斜が連続している。傾斜が急な川沿い。
 川の水は少し濁っているが、大まかに見ると、早
 ついでに流れている。体を洗うと気持ちがいい。
 北斜面下部には低木層がなくなり下りはシダ
 類が多い。落葉も多量に乾燥している。ここは
 18日やりた set のまた月夜からぼろぼろと雪が
 降り、氷が降り、水が凍っているのを見つけた。
 氷は川に流れて、川が凍る。足は滑る。川沿い
 の落葉層が厚い。川沿いにシダ、
 ヤマセ、カサネ、カワカサス等が生えている。
 夕暮時、道沿いの樹林をうかがうと、鳥の数が少ない
 とはいえない。鳥の数は、登山道の手前の
 700m を過ぎ、冷たい川沿いの下り、極度

の急降に降り、川沿いの樹林をうかがうと、鳥の数が少ない
 と思われ、ヒメオドリコソウなど多。またこの
 付近の樹林は耕地にはビントウ
 が多く生じ、思わぬ鳥が空を飛び回る。この
 あたりには Common myna は22にも多く、
 Drongo も見られた。22は Tree sparrow
 (Modi Khola) のアホコトから大まな谷底の下り @ 1050m の
 川辺でヤブ (3:30 着)。この下り坂は 500m
 位の高低差があり、道は急な (45° の) 傾
 斜が連続している。傾斜が急な川沿い。
 川の水は少し濁っているが、大まかに見ると、早
 ついでに流れている。体を洗うと気持ちがいい。
 北斜面下部には低木層がなくなり下りはシダ
 類が多い。落葉も多量に乾燥している。ここは
 18日やりた set のまた月夜からぼろぼろと雪が
 降り、氷が降り、水が凍っているのを見つけた。
 氷は川に流れて、川が凍る。足は滑る。川沿い
 の落葉層が厚い。川沿いにシダ、
 ヤマセ、カサネ、カワカサス等が生えている。
 夕暮時、道沿いの樹林をうかがうと、鳥の数が少ない
 とはいえない。鳥の数は、登山道の手前の
 700m を過ぎ、冷たい川沿いの下り、極度

29(A) 北斜面下部の層林 (樹から沢) にて *Suncus* 1,
Mus 1, *Apodemus* 拾得。1 拾得。河原の表地には
 0。今日は道沿いの斜面を登ると一日停滞。
 昆虫採集や鳥の観察。蜂はモンキアゲハ、アサギの幼虫等
 が多く見られた。Modi Khola 付近にはヤブに
 カワセ、カワカサス、セキシロイ、大形の黒く白い斑
 のあるセキシロ、熊の赤褐色、頭黒、頭頂白のイビドリ
 の似た鳥、大形の黒いツグミ(嘴が長い)、Yellow-
 checked Tit 等。またカサネの草刈り場では、川沿いの鳥
 の胸からのとりにかけて、体は褐色の鳥の巣を
 発見。カサネの 30cm 位の高さの木の幹で、~~木の~~木の
 葉の下の葉をあんたを降りかけた。セツカの草
 の下に似る。このカサネの場所には、15日ほど見られた。
 21は 35° の急斜面北向で、カサネの他の草が比較的

密に生じた部分(特に岩のさき)にあり
この部分にワナ15個をかける。

また Modi Khola 河畔のハシキ林(川岸の荒地)
に18個のワナをかける。下草はマダ、コノ等

2時頃には大雨あり。夕方にも降った。雨は降る。
7:00-7:20 比較的大形 (garden bun だったもの
54ヤシ)のワナを。中形キコトシラ、大形のワナを
等か取れた。餌をいれたかかかりそうもない。

昼、7:40頃の足跡の向ハツルに鹿(シカ)の
のを見。この上を谷間をワナを見つはれた。

Modi Khola のキャンプを引上げ7:20お茶(大か
流迎表は作(通)が思ひ込で" Pokhara
へ引越して行った。ワナ1人(ニニマ)ポーター
2人をつける。Modi Khola 河畔林にて Rattus
2, Bunco 2 を採集。斜面カヤ刈り場では0。
河畔林は乾燥しているか、大形掘りかいたか
比較的大に取ったか、のうと思ふ。

Camp 地の 200-300m 下にありワナ橋をわたり、支流
沿いに上る。この支流は本流の尻毛に濁った水
と異なり、きれいな清流で流れていすかあり臭
もみす。ヤマセシ、ワカガシ、大形黒色セキイ
しはうは、この支流の左岸をたづねてとる
か、途中、ヤマムシ、羽を見。

4A
30(42)
Modi Khola
1
Uleri

ニニマ
ワナ22
9:15-10:24

1200m 付近の斜面林にて Common Langur
約15頭ほどの群を見。木の葉を採食していた。
大きな(ホエ)、若者お頭、子供もつたての子が
多い。そのほか、下地の斜面を掘り、10:30
(1450m) Hirle 部落につきここの倉庫、土庫の
上にて Chapatti を焼く。焼きたての chapatti
は結構いける。この部落を過ぎ、近くの林で
Rhesus monkey がやはり10頭の群か道を
掘り、谷間に下りて行くのをみた。1500m
この付近には木14本の黄色い葉が熱し始ま
り、この木をたぐい、集めたものを食べた。
これを過ぎ、しばらくたづねて登り、その支流を
渡す。この付近で、大黒セキイ、~~黒~~体暗色尾
赤褐色のヒタキを見。

川を流ると急斜面に上りつき(東斜面)に
2000m 半の麓に部落で Camp。2時過ぎ
着。この急斜面の登り、ワナが雨にあず(最初
はヒョウ混り)。2000m にもなると雨は
大変な17分位。

この部落の上には 50m x 7.80m 位の
竹ヤガ(草樹も含む)があり、中央にはこ
ろこの竹ヤガのまわりは石垣で囲まれ、家畜は
はいちやうに飼っている。人もほとんど

Uleri

はいつた形跡が古く落葉の堆積も大変厚い。
 1/4のラックフンがあり、また鳥居くつた足跡
 もみられた。またネズミかイトングリを巣めく
 った足跡や、落葉層(厚い所2mは10~15cm)
 中のトネルか多くみられた。ネズミも
 かなりみられた。ワナ35尺。トラバサミ2尺
 をかけた。正高さんから空地のカヌミをかけた。
 視界は霧が立ちこめ、山形がぼやけか
 へてくると網がはかかった。夜は冷えた。
 夕方キャンプ地(火用のcamp)からAmmapurna
 南峰が一瞬見えた。

5月10日(月) 昨日かいたワナでは何もつかず。朝最低気温11°C。
 Ulleri 6時13°Cで涼しい。6:50 Uleri 部落のCamp
 Gorapani 地を出発。この附近の耕地には、カウラ(月本と同じ)
 カツウツク。Common Naya. Pratygo. カラス、ハゲ
 ミ(赤形)。黒いスリブ色やうげと大のB(ブービー)。
 背の短い鳥。フイン(石炭赤、早入り) 3羽
 近くの池に小鳥がみられた。2150m 附近で
 ヒッコウの足跡を数羽のハゲリシカをみり木の上
 7:45 についた。2200m 附近からRhododendron
 の大木を中心とするJungleとなり。木にはコゴヤ
 地ながつき、蒸気も多くて大変暑い林である。

同じワナを杯か 2800m 付近(峠) 近くの
 11時 2250m 付近にヤシのJungle 中の落葉
 中のコマカイ、シイタケ等を採集。ほい所ではヤシ
 十の葉は、2700m 付近では一部
 を残してのものもみられた。2350m 付近のJungle
 でcommon langur の足跡10枚程度を見つ
 2480m のヤシのJungle に入り、4時
 入寮する。軒下にて、昼食10:35 着 12:00 出立
 こころも一頭の大犬と langur を見
 今日昼食が丁量り、11時雨が降り、午後
 10分ほど Gorapani 2750m に到着。こころ
 Camp (13:10 着)。こころに着くと、こころに
 に見えつた。Pohala まで2時から毎日の午
 午になると雨が降り、天気が比較的よいのは午前
 午後1時からは、雨が降り、今日は午後
 雨が降り、2時 Gorapani はヒルカ
 まで、ネズミのワナは、今の大変あり、(1)
 ワナをかけた。毎ル3~4匹のヒルカを
 2時、それを落葉層の大変厚い所から
 2400m 付近から上15分ほどヤシの
 27. Gorapani 2750m 付近の溪流沿
 ワナ55をかけた。木の根の向や川
 下の川沿いの向を

朝6時7°C 最低6°C

20(木)

Gorapani
Atopani
Tatopani

昨日かけた溪流沿いのワケルは Soricidae 2種,
mouse 2種 4種 (A種1種 B種3種) vole 1種 2種
Soricurus 1種 3種 を採集。Soricidae のA種は
1種 2種 3種 4種 5種 6種 7種 8種 9種 10種 11種 12種 13種 14種 15種 16種 17種 18種 19種 20種
は珍しい。他の隊員等は朝7時頃出発
した。標本採集のため小生のみ出発を促された。昨日
の朝かかた利根を渡り。シヤグヤン林の中は濃霧
もあり物影にまぎれは好適な生息地である。
Gorapani から 40-50m 登ると峠で 2400m は
2400m 付近までシヤグヤン Jungle 中の下り道
にシヤグヤンの花を両側に咲かせた
あり Gorapani 付近のうす褐色の岩 (すこし
緑っぽい) とは異なる。2480m 付近のシヤグヤン
林の中の木でモセムカイを採集。2400m 付近(北側)
から林がまわり開かれ部落となり 2000m 付近の
Shika 部落で昼食。ここは宿場らしくまたヤン集
も置いている。このすぐ下の Shika ghara 部落は
薄い石段で屋根をふいてあり壁も石積みで土か
ながたい家並みである。村に9部落は各家で
養蜂をやっており、石作りの家の屋根に大木をくり
ぬいて水筒を吊った。ミハ平箱や、家の側面にシ
ハク入込を吊ったものやがみす。養蜂等はま
め盛ん。我々も5時ごろに養蜂を見た。
この下に ghara 部落があり。この付近では

white scavenger vulture, white checked bulbul,
カウツ (田村と同じ) common myna, = ゼラタイズ
X, 雉をみる。ヌスバは Tree sparrow のミ, House
sparrow は金くみす。この軍科 (田村) を
たぐらると長距離北へ (向て歩き、カニヤキ
川河畔 (1220m) まで下り。下りた所の林の
付近で ^{カニヤキ} の群れを会合。たぐら
の近く ^{カニヤキ} までここを待たす。Gandaki 川沿
の上流で約 1km 上った河岸丘陵にて
キヤン (4:45 分着)。この丘陵上か下りの木

木 (Tatopani)
1240m

木、シヤグヤンの木をたぐら (岩の向) の
ワケル, 木は Gandaki 川沿いの岩のこぼ
しにシヤグヤンの葉をたぐら もりた set.
今日はキヤンにはワケルから 15分ほど雨がふり
始め。昨日より F11F やおさ。Camp 地夕方の
温度は 22°C で標高が低いため、かなり暖かい。
夕飯は 4人カレーで済ませた。朝食は羊羹と
ダルスーフ (毎日)、昼は 4人パーティである。夕食は
4人パーティかよい (腹もすかすか)。

21(金)
Tatopani
Ghara

Tatopani の Gandaki 河畔から下りの灌木に
タケルからたぐら Rattus 2, Suncus 2
Mus 1 を採集。たぐらも比較的低い地域の
農耕地や川辺ではこの Rattus, Suncus, Mus

の3種カゴビにも棲んでいるらしい。

7:00分ニモお茶。Gandaki川を上流へ登る。
川岸の斜面をトパスしながさすしずつ高さを上げ。9:30 Dabna 部落につく。ここには check post がありネパールの国境パスポートの授手を行なうニモ過ぎ Rulerche Khola で昼食。ここでツクテカ
Dabna へ向う post runner を雇う。一週一回の配達と云う。後山を歩兵をやる。昼食後 Sumcus と Mus の標を採り1時頃お茶し先登の防壁の道につき。その後長い距離をたどると登り、4時頃 Ghaza に到着(2080m) Ghaza 部落にはいると家の行列が急に変わり石作の平屋根となつて屋上では収穫したカマ(丁か収穫か終末はかり)の籠こくを積んでいっている。屋上へは一本の木に足がかりをかけた梯子で登りまわっている。Tadapani をすぎ Gandaki 川を上流に進むに従つて風厚は七ん七ん荒りまわるとして木はほとんどなくなる。しかし Ghaza 付近に草子とゴウマツリ喬木林が一部あり、その他細いササの密生地も所々にあり。南向斜面にある滝の下から谷川流いの竹林伐材のつせかけ。他の斜面(45)のヒスル 放牧地、一部岩れき地、小灌木群生地もつせかけ。

今日の昼食はソーメンであつたが行脚中の昼食にソーメンは不適である。すぐ腹がつかつてくれもたない。一同 Ghaza へ着いた時は腹つかで現地人のたてで (ニルビ造か昼食にたてりもく) をつまんで食べてお終末である。

今日は夕方にちつちと雨が降つた程だがツクテに達するに従つて雨の量も、降り時間も少くなる。

4日(土)
昨日が採った斜面(45)の小灌木群生岩れき地(乾燥) - ムウシ、ヒツジの放牧地 - では Rattus sp 1 と Mus の尾のみ1を採集。流下流の溪流沿いのワナでは流下の水のかかぬ渾濁の非常に高い草地(草高100 落葉 5cm 高さ大)で Sorex 1 を採集。この付近には縦横のトコネアリ。このより下流川沿いのササが(乾燥、ササ叢生地以外採集なし、川沿い部分の一部のみ)で mouse sp (腹白) 3頭採集。どうも農耕地や放牧地付近では Rattus, Mus などがニでもと小。但しこれはこの Sumcus が加わるといふのが一般傾向であるらしい。

今日一日は Ghaza 停滞。流下の湿った落葉中にゴマカイを採集。

マウ
Pimus
Griffithii
Ghaza

= 1944年の鳥類 black-headed shrike, 日本の
 1944年シヅカガウ (Camp 地の学校の南の石
 壁のそばの菅草。一親を採集), 背白色腹白 (白) の
 10/4キ, 日本のヒキタメシ (ヒキ) キ, white
 checked bulbul, ニラヒススメ。白赤早オリーブ
 finch, 黄緑の小形ウグイス。フクロウ。大形。黒色
 白腹のセキシ, セキシ。黒色黄嘴の大形ウグイス。
 今日は一泊が降りずラジラシ曇った程だ。
 22時 Tree Sparrow のみ

(田) (田)
 Ghara
 Tukauche

滝下溪流沿いのかけたりたで昨日と同種の mouse
 を採集。この種は日本の Apodemus speciosus に
 似た生活をしていて川辺の「ヤブ」でよく棲む。
 7:00 Ghara を出発 最終目的地 Tukauche に
 向う。Ghara の上下両支那村はすべからず最下層
 ナーストの靴履か店を囲んでおり下のほうは
 上流のほうは岩のけし 4人の男4人が大木を伐り
 筆を削っている。Ghara を出て 木を削るゴウマ
 の持向かう雪山がよく見えるようになった。
 2350m 附近の 44 座落 森林林の落葉林にて
 びんがイ。ウグイス, 毛の鳥 鳥を採集。この川沿い
 防了のせいで 42, 43, 44 のようを採集。また 日本
 のヒキタメシの 2/2 の 2/2, 2/2 の 2/2, 等を採集。
 Kari Gandaki 川を上流に登るに従って Dauragiri

- Pinus
- Tunga
- Juniperus
- Maldiviana
- Cupressus
- Taxus
- フナシ
- Caragana
- brachispina
- Berberis
- angulosa
- Sophora
- Horocroftiana

方面の Ammapurna のすばらしい眺めがみえた。
 川の上より Karapani で昼食。今日はシヤカゲ
 を煮てものに塩、バターをつけて食べた。料理で
 とも食べた。今はいくらもあつたから大急ぎで
 大急ぎで。ここから Ammapurna からよく見えた。
 今をすしげうと上へ Kari Gandaki 川の
 広い川床 (河原) に出る (2500m)。この河原をすき
 左斜面を上へ入る。この川原のほとん
 どの木が倒れて、この林を通りぬけ、再び
 大木林 (主として大木、中位) 河原をすき
 約 30 分で Thak
 Laajung 着。ここから更に 1 時間
 ほど同じ河原をすきと Tukauche の街に着く。
 Thak Laajung の村は (左岸) 針葉樹のよい木が
 多いが 右岸 (傾斜面) には木がほとんどなく、人家
 が多い。Karapani あたりから大木は青々としており
 かなり収穫期が近づいてきた。Ghara には
 大木の収穫最盛期で半数以上が収穫済みであ
 った。Thak Laajung の少し上流の右岸の崖壁で
 大木のいせれ見 2 親を採集。この崖壁は大木幹を
 してあり 柵も取れぬ。920 直前日迄のよくなる
 折だ。この山を越え 245 の見か 結構いい。
 Tukauche の街をみれば大急ぎで、春の収穫期
 ともなう Ghara の山に 路の穂のイが

藪の傍で二りある石の管みかまのいであり
春畑を囲つた石垣沿ひ、近くの谷川沿ひ、石の
わたりをかけた。しかしネズミのいそぎを少くは
大喜少くは、ワナかけ場を揮つたん共言ふ。
谷川沿ひもヒツジ、ヤギ、羊の草がくいつたれ、
あの子のはたけのあり小灌木ばかり、あの子はたけのあり。
今日も午後少しほろほろの雨が降つた程であ
り、雨を前ニヒツジ、羊の草がくいつたれ、

6日(月)

Tubuche

朝6時 最低(11°C) 最高(15°C)
昨日が、川沿いの overhang 下(灌木下)ではネズミ
の、春畑の石垣沿ひ(近くの谷川沿ひ)、灌木下を
捕ら80% 強か小、下草を以て *Rattus (norvegicus?)*
1. mouse sp. を採集。但し mouse sp. は何者かなくや
種別、層別の子孫。本日と同じよう春畑沿ひの
石垣沿ひ、石垣沿ひ(近くの谷川沿ひ)、灌木下
の灌木の下に下草を以て(捕ら100% 80% 強か小(ワナ)
乾燥落葉層の下にあり)。また半砂漠状、谷川沿ひの
あり小灌木、陸地地にもワナかけ。

Tubuche は日本のもの似た植物が多い。タゲ、
マツ科(チドリ)、スギ科(タケノコ?)、木等。また鳥も
似たものがある。日本と同種と思ふもの、オオハシ(多)
ヒツジ(多)、ハシタリカラス、このほか、大形のツバ、
古木のフィン、ネズミ、ハクセキ、Tree sparrow、嘴の赤

ハカラス等。東斜面の半砂漠状、谷川沿ひのあり小灌木
陸地地、岩壁は昨日採集した短太セビルパイ
か、小灌木の枝下や石垣沿ひ(谷川沿ひ)より小形の
短太のセビルパイ。小灌木下落葉層中にヒツジ、マイマ
ヒツジ、大形のヒツジ、ヒツジを採集。ヒツジもまた
乾燥地所にあり面白いのらしい。休眠中。
今日も雨を前ニヒツジ、羊の草がくいつたれ、

Milgiri, Paulagiri かまのいそぎ。
天気がよりの日であり、比較的暖かいが、風が
強くなり、谷川沿ひの谷を吹きぬけ(一中)、
氷河から吹下すため大変冷たい風である。半砂漠
ヤツコ、下草を以て小なり。川沿ひを流して、
乾燥地での下草、平が(ヒツジ)子孫に痛い。
後山、松林は川沿ひを以て、ヒツジ、タゲ、
旅行をする。警官つかつたパスポートの Tubuche
から谷川沿ひへ、谷川沿ひへ、谷川沿ひへ、
今日ヒツジを以て、(150 Rs 余)夕食はヒツジ
かん、満腹。ヒツジは、ポーターを以て大量の草、
腸詰めをする。ヒツジもまた。

7日(火)

Tubuche 春畑石垣沿ひのワナを以て *Rattus*
(norvegicus?) 3頭採集。9時 Tubuche を以て、
下流の Thakharjung の谷川沿ひに針葉樹林
Thakharjung 林のヒツジを以て。夕食はヒツジを以て。

Tukunde の谷を去た川沿いのマク大ヤバハン
 の生立ち。Daulagiri を入けて字集を撮る。
 この地 Tukunde の半砂漠地やそこり植物
 の字集をとる。

Larjung 針葉樹林はコヨウマツ、ヤカ、
 シヤンセン。ほかヤバ 葉の喬木林 15~20m
 で針葉はほゆるゆるなく、常緑の 30-50m の
 小灌木 (ワイルドローズ等) があすかに (割合10%)
 生えている。草なし。林内全体常に乾燥して
 いる。このまじりて樹木種は 7+20 種 set。
 針葉樹林は湿地があり、林縁部は樹木
 類や木の根本に 27 種 set。

またこの針葉樹林内、朽木にコヨウマツコブを
 と採集。朽木下には藻類が 5 もつた。ヤカ
 マイイ。小枝を腰の高さまで、葉を採集。

湿地にはマノアラカイがいる。

森林の鳥カウコウ、ツツドリ、ヨダカ、ホシカラス

昨夜は大夏冷た、最低 3°C 6 時 5°C。

針葉樹林内のかけたワケで Gorapami のヤカ
 トヤバ林とよそと同じ mouse が 2 頭とれ、
 林縁部湿地付近に同じく Gorapami とよそ
 Soricurus 1 頭がとれた。Crested 種は長小形だ。
 9 時にここを去る Ghasan へ向う

SP(木)

Thak Larjung

Ghasan

R. Griffithii

Tunga
Taxus

軒下と同じく Karapami の屋敷。このヤカ
 下の Kete 部落の松林(コヨウマツ) 15~20m
 疎林。下草殆どなく、寂寥小さく陽気は下
 で通りのびに乾燥している。で大形マイ
 イ 2 種、小形マイイ 2 種を採集。いすも
 松の倒木には石の下に 2 体眠中のもの。
 特におもたしい口の部分に黄色の鮮やかなマイイ
 は付着している。カカは極小種、~~松~~ 松木の
 付着しているのを無理にばかすと木の皮がと
 てくさか又は臭い液体がこぼれ出すほどであった。
 この付近で嘴のグレイグレイ色をしたカラスの若鳥
 20~30 羽を見える。松林内はこの付近で
 ウスバキチウを 1 頭採獲。珍品。

4 時半に Ghasan 着。大夏の夜は 7°C ほど
 であり、徳かけしき暖かた麦畑にはうま、うん
 ちをか放牧させ、一応くわ小枝は刈りつけて
 焼く。この際畑の隅隅に小灌木類(ハナ
 トヤバ)も焼かすのび石田いなどもある
 いる。麦畑周辺のこの種の bush には
 不滅だが麦の穂を採り込んでいた跡が
 かなり見えた。滝の下(シダ、アザミ等)の 2 匹、
 川辺竹林の中(ワカ、4 時後の麦畑周辺)の 9 匹
 ありたかす。夜 9 時過ぎでもコウマリの



羽(木)晴
Ghassa
Tatopani

界(山)をみよか 川の土に落ちた網には
かからず。ここの下りてくると比較的好勝なく
各の水で体を洗つてもあまり乾く事い。
Ghassa 滝の下にアサギ草の生えた湿った所にてアサギ
2匹 mouse 1匹、~~谷川~~ 谷川沿い竹叢生地の
陰湿な所に *Soricurus* 1匹。収獲直後の大麦畑
周囲の石積みの溝(177サ、竹叢生)にてアサギ
2匹 mouse 1匹 Mus 5匹 採集。この川は
では麦穂をくつた跡か子鼠を見つけた。
7:00 採集する川の最下層カーストの軟層(715m
以上)にてネーブル靴(厚い皮でできたゴックル靴)を
1足15Rs で購入。7:30 出発。9:00 には昼食
場所 Rukuche Khola の滝の下に到着。ここで
昼食副産物採集作業。滝下で Rakpa はすば
らしい2尾のワニハダコを採集。12:00 出発
3時前 Camp de Tatopani に着いた。
Ghassa - Rukuche Khola 間は部落は少なく
一部は *Alnus* の林帯をもちあつて島も比較的好
多いか。Rukuche Khola 川は下は
ほとんど農耕地となつてこの川は
北岸からみるか Rukuche Khola - Tatopani
間は非常に長いたつた道のコースで休場所
ほとんどなく。また木もほとんどないため

sal tree
papaya
mango
Ficus religiosa
banana

大変暑い道であつた。途中にはアサギの生えたところ
大きな葉をつけ、草刈りの道具(現地では
食糧代りのこの葉をつかう)が花をつけ始めると
子と子。この農耕地は木は *Common Nya*
が現われる。R. Tatopani の Camp de Tatopani
では母方の一行のお合うに1270m 中の長いワニハ
の生えた崖を吹き飛ばして登り、花畑は
あふんとして白いワニハをかくしている。
Camp de Tatopani は最近雨が入っていないらしく
9時よりすると乾かしている。その水が大量に
い。初めは Camp の前では木が少なくて
Camp de Tatopani の Kari Gandaki の河岸段丘上
の崖の上の段の壁から吹きおろす水がアサギ
その水の落ちる所 30cm ほどの水たまりの中で
水形のドジョウを採集。こゝは崖上の段は土に
2つ畑は水が切れる Kari Gandaki の
川岸には5~6m の高さがあり、河岸は急な
落ちこんだり、この川が上つたとは考え
うかす。また上から下りてくような道は全くない。
よら思ふが。もしこの水たまりの世帯をくり
返してこの水たまりは面白いものであつたと
今日はこの水たまりは昨日に全くとけず。休養。下
途中。Phana 27 入用石の山 Muntjak の子を

地を歩くと
見を揺る。

10B (金)
Tatopani
|
Chittra

25Rsで買ったての皮と皮の付本をとり
bodyは明日のこの地を歩くと
Tatopani 7:00 荒谷1km川沿いに下り大竹の急な
斜面を登り、一つの尾根を越えると北には七つた道
を少し登り ghara, Shikha-ghara, を過ぎて
Shikha部落の倉倉(10:30着)。1時過ぎにここを
再び耕地の斜面(ほとんど木なく、陰なし)を登り
登って2400mのシヤクヤゲ林林縁部になり
ChittraのCamp。ここはシヤクヤゲ林の下部林縁
部になり、谷川沿いの石のかけ、土のoverhangした下
地になり、set。高木は疎林で赤い花をつけ
シヤクヤゲ(一部花あり)。うばメカシ類高木等から下り
下草はほぼ完全に家畜にくみかきいせため、木の下は
開けた。他に収穫後の裏田沿いにワナset。
ここは一部ハラ、イワケ等のbushがあるが、他は石垣
沿い。カズミのハイマ、ヨメカサ等。コウモリが飛んで
いるが、とれず。夜は大変寒い。

Q. semicarpifolia
Rhododendron
arborescens

11B (土)
Soriculus
caudatus
Chittra
|
Ulleri

昨夜は雌雄3.5cm程のつら。シヤクヤゲ林縁流沿い
のかけたワナで *Soriculus* | *Soriculus nigrescens* 7
(*Soriculus caudatus*)
下流林縁部でアカネと拾 mouse 2, 上流
林内にて grey の mouse (gorapaniの拾集) 1,
畑周辺石垣に *Suncus* 1 山側ガケ下にて *Soriculus*
nigrescens 1 拾集。

Chittra 7:30 出発、歩き始めに2850mのシヤクヤゲ林
内峰 (gorapani) に過す。30分下つたシヤクヤゲ林内
南斜面の倉倉(9:30着)にここをネズミの標本作製、
1時過ぎにここを出発するとシヤクヤゲ林を下つて
Ulleriにシヤクヤゲ林縁部(2250m)でCamp。
先日通過した時は毎日雨が降つて、この日は
内は湿潤で大変寒い状態であったと思つては、
その後全く雨が降らなかつた。林内はほとんど
カラカラの乾燥地にして、谷川の氷流も凍つて
いる。全く水が乾かすので、行く時は
滝壺中へコマカイ草も多かつたので今日は全く
みずがなかつた。Camp地横の険流沿い(シヤク
ヤゲ、うばメカシ類その他高木林でコマカイ草
下草は家畜にくみかき合まつた。やはり谷沿
いの岩の下、overhangした土の下などにワナを
かけ、11時のやせ湿った藓草等の中へコマカイを
かけ、コマカイは少ない。Camp地の少し上
のシヤクヤゲイノコを捕虫網で拾集。この鳥は尾
が短くて足は長い(長い)に見え、驚かすと岩の側
や草の下へかたまりて、くみかきを捕虫網で捕ま
た。9時Camp地からMachapuchariの2架起が
見えた。
Chittraの少し上のシヤクヤゲ林でラングールを見
た。

12日(日)

Ulleri
Biratanti

Ulleri部落とシヤクナゲ。ウハメカシ林の中の谷川沿いのワナ(麓の下, overhangした土の下)に、草はとんとなく、但し裾か100-150cm)の *Soriculus nigrescens* 3. *Soriculus caudatus* 1. アカシハナノハナ mouse 1. 灰色 mouse 1. 持集。この林はシヤクナゲウハメカシ草は5~20mほどで、その他はスガクサラシムシの花をとり灌木多量。下草は家畜の糞や草の葉が散らばっている。シヤクナゲ川は川底が浅く、ワナが多い。川岸のみで、川が干すところは草が茂る。

Camp 地を標本製作。8:30 出発して小川をシヤクナゲ林を越えて Ulleri 部落上部の耕作地(40°位の斜面に石の畑)のシヤクナゲが15~20cmの幅で、2180mの中にある40m x 40mほどのカサ場を越えて、土まじりの草。一頭は成体で大きく、色は赤褐色(大雪の成体は似ている)であったが、他の一頭はやや小さく、思はずか強かつた(6~9cmの体を釣り上げ、持集)。また、この12日は2日7時7分とつながり、成体の力は全くなくなる。こゝで 9:00-10:00 観察、持集。Ulleri 部落の急斜面(45°以上)を30分ほどつかい、下り、土まじりの草。Modi Khola 支流(清流)の川を下り Modi Khola の右流に

Biratanti

の上で Camp (No. 11. 12日部落と同じ)。Biratanti 河畔のハンノキ林のワナを set. 10 12はシヤクナゲの bush, 川の22cmほどの下。カサ場か付。ワナを越えて、地上を甲斐のワナの下から、カサ場のワナを越えて、長柄の捕虫網で持集を就めた。1頭は成体、腹は次のワナに付いた。残りは不明。近づく山火事あり。5cmほどの花火の如し。9:25 柳葉捕虫網のワナを越えて (Pohkala 2日持集したのと同じ) 一頭は成体と持集。

13日(月)

Biratanti

Biratanti 停滞。朝8時頃 川の対岸に ^{斜面 Alnus 林の中} 一頭は ~~Martes~~ ^{Martes} Himalayan Yellowthroated Martes *flavigula* かの上流にゆくと、traverse してゆくを観望。後の上流流の下河岸の丘上の大きな岩の節階を、洞の穴の縁、その流の下に草が茂り、よく通る、い路か、草も多。この流の近くには Porcupine の針や *Rheuss monkey* (?) の全身骨格(頭骨の持集)などか散らばっていた。またこのワナに捕集したものを2頭と持集。

昨日か付たりの中、畑の溝沿い(ワナ、シヤクナゲ)の密生、裾か100cmほどの草、ワナの中、腹白の *Rattus* 1. *Sorex* 1 持集。Modi Khola 支流(清流)沿いの岩の洞(ハンノキ林と木が茂るワナ)で、ワナに持集 *Rattus* ad 1 juv. 5 持集。川より少し急斜面

を望むカシ。ハンクと大。湧水(少流)のあり所を
Suncus 1 採集。

昨日もやつていたが今も部落の^人か多数にて
川の不安の一部をせき、流水を少なくした竹の
あし種や木の葉や枝を石で太くしてくわいたの
を入す。弱く浮上した魚とついで(日本にやうな
もの似)。魚は3種ありウグイサ、ギンギサ、マツカサ
といふれも口が下側のは産性魚であつた。
昨日は Camp の前を拂ったものを3種3匹と F-1 の
一本と交換してもらい採集した。

今日は川沿いの麓の向(斜面には ^{下向} Alnus 林)にリナ
15 個 set。テンの葉の近くにトリス 2 個 set。

7:05 より方形のうり形に始まるか。とす。
今日は3時前には夕立かあつた。

朝7時 camp 地 部落の Alnus 林中を早稲帰
2 種の Himalayan Yellowthroated Warbler を
~~採集~~ 採集。とすも毎日 滝下河岸 麓上の
麓の下の葉をたて下流 Alnus 林。川沿いの
方向へ採集のついで、朝7時半頃 早稲帰
たつた。トリスは1匹のみあつた。

川沿斜面下部麓の下にかいたリナは
Suncus 2. Mus 1 を採集。

朝 採集を5時半頃 7:40 番別おこして

14日(火)
Biratanti
Swinhat

去る。やや川を下つて Modi Khola にかつた
つり橋をわたつて行きの時ウグイサ^{7°}地帯を
通つて ~~Alnus 林~~ ^{Alnus 林} 中の谷斜面を 500m (高
さ) ほど登る。途中 Machhapchari, Annapurna
からカシの中へはあつた。はつちりの金
景を見せる。スワミ君 スワミ君 いる。字義
はカシのたぬ悪鬼のようであつた。

ここを登るとあつた女了女了道で麓根や斜面
をトリス 好適 長い道かつつた。途中
はもつはう 蝶の採集をした。この附近一帯は
農耕地で hamle 部落を過ぎ少しは草村
林の残つた山頂附近で産性(行きの時にもこ
産性)。これを過ぎると再び農耕地の斜面
をトリス。斜面全体を好む畑にした
風景は好ましくない。南のふん木方の湖にお
見える。ここから Swinhat 川を下つた所の
草村林下部(川沿に近い)にキヤン^{7°}
行きにテンを見つけた所を案内して貰ひ、テンの
道路らしいものを鬼つてトリス 2 個 set を
けた。とす。谷斜面谷向の麓の下や overhang
の下側をリナ 2050 set。夕立 7° 地帯
つらつりか 飛んたのの 採集 畑の一端採集。
トリス 2 とす。とす。夕立 7° 地帯

Schima
Caetanopsis
indica

20日(土)のPohkhalは霧の包がすっかり濃くなり
朝の新緑とは全く異なる。バザール中の
木の軒下(木造の長方形アツハメはすでに築30
年。Pohkhalはやはり新築。服装、履物等
も山の土の人はずつとかわらばり(2才)り
さかしく見えた。7合は Amapurua Hotel 2
(1人前 10Rs)のこのHotel最高の念事をとり、バチ
ア村下れに満足。夜はHotelの庭で
ヤカ鳴り、2才のこ推りまに持来。
村はワカケセオ

17(金) Pohkhal 停滞。午前中は Tukuche 旅行の手帳を
整理。やはり Pohkhal は暑い。こゝに天気か良
かたのび 蚊骨持来もよく乾かす。

午後はダム下流へウチ釣りに行ったか。全く
釣らず。カカアに全釣りのみ。湖地は口の湖
長の魚もつたササリに似た魚かあり。子供か釣
つた。正當さんが鳥肉を餌にして川に
1才バヤミの White scavenger vulture 1羽
かと小た。ワカケセオ。明日よりバグナス湖
へ4月間の旅行を村太の荷物の都合で行なう。
夕方より小雨あり。7:30 迄はやがて降子。

朝5時半に起床。午後薄暗い。カスミでウチ一頭
(新)11羽)持来。今日から Pohkhal 東方の

18(土)
Pohkhal
Rupak

バグナス湖へ行く。空港権のものすく狭く深く
切かたに冬を泳いで。水田(乾田)中の道を進
む。畦道の草は水牛、牛をこよつてなめり
くいつくさか。草をこよつてなめり
鳥も非常にすく。木の枝の所で青いカス。Drongo
をみたり。川を流り。部落(バヤミ?)を通り
道を虫(蝶)持来し。途中。松林君か
2羽 ツバメを捕虫籠かす。カカアも Tree
sparrow と ツバメを捕るすく。午後後山は
村家の屋根いとつたハト(カバト?)を手
びつかむ。

Arbumpawa は二層倉にから雨は水田(乾田)
に。現在水た大部分は乾田にあり。2羽引きの
すきこ土をこし始めたとこりあり。

バグナス
Rupak)湖

バグナス湖の近くの川でタニシ。カカアも巻貝等
み。バグナス湖畔の石小山を越えて2つの湖の
接する所進み下りて人家の小庭かけの下にCamp。
3時ころから雨か降り始め。雨すく。雷雨かあつ
たのこ近むをし小屋の下にテラを張つたかいま
めて快適。しかしこの所進みは温泉。温泉か
非常に高い。不快指数は非常に高い。

このバグナス湖畔の山の北側は野山にカカア南側
に F Quercus Castanea などの木持来あり

その下部が一部肉こんでわけて耕作地となつてゐる。この杯端部は1500mのワナ。林内は約100
 鹿が小下用。落葉3~5。家畜放牧。ワナがけの
 部分は林冠50~70%位。林縁はワナがけの下部は
 耕作地(作物なし)。ここには Rhesus monkey
 が2~3頭いる。またこの丘の部落(おぼろ)
 おぼろ(小形)144ヶ所(雑穀多量)の家はRhesus monkey
 が10頭集まるといふ見。サトウキビを栽培する
 家もいくつかある。農家は皆山火に焼か
 れた。ワナがけの雨のため。午前中から3時頃まで
 はさわやかな天気だったが3時ごろからものすごい大雨
 と(2~3cm)降った。大雨は山田先生、松林石等の
 人は後者のため。おぼろの家は移る。Rupak湖湖畔
 はまた40ヶ所のヤシボロの林が非常に多い。背
 blueの白い嘴の鳥の一種。後者の藍色のヤシボロ。コ
 ンヤシボロ。林縁湖畔。谷川沿いにワナ15ヶ所
 雷雨のためおぼろから落ち。雨期に来るとは大量の
 ヒメハシ(大形)の鳥が来る。ワナがけの鳥は
 包帯の濡り濡りが見られる。この大雨は強烈
 と云ふ。一方に大量の雨がふるとは。ヤシボロ
 は濁流はたつと濁流となつて流れている。

190(日)
 Rupak

ワナがけは表れないワナがけの流す水は恐ろ
 しい。この2日雨夕方から夜にかけての雷雨のため
 衣は濡れ、この調子ではこのワナがけの
 雨期の到来が思ひやう。20日(月)今日も午前中はさわやかな天気。Rupak湖畔の
 Rupak コイ4匹を釣る。Pohhala湖の(おぼろ)を湖長
 嘴の鳥。おぼろ(おぼろ)を釣る。ギバチ採集も一匹釣
 り上げ、種名は不明。カシ場石の下にコサソリ2匹。
 大形ヤシボロ。大形黒色ヤシボロ。マヤシ2種
 6匹等を採集。3時頃から定期便の雷雨が来り。
 大形黒色(白) (首白、下尾筒が尻にかけて白)、夕べ
 白色の小形カモ、カインアリ等が飛ぶ。ワナ
 衣葉樹林内にはMuntchak 1頭(角なし)を見た。
 カシミエの white throated kingfisher 2羽を見た。
 この鳥は湖畔、水田地帯に多く見られる。ツツク
 とよび、声は「ツツク」の音の中にある。森林内には
 いる。ワナがけに産卵するのともあるらしい。
 正高さんはRupak湖畔の森林中にハシボロ
 の一種の鳥を捉へ、夜中に「親と子(ヒナ、無
 精卵)」を採集。湖畔で2mほどの「ヒ」を見
 (おぼろ)採集して食べた。
 今日雷雨はやや弱く早く終わった。夕暮の頃
 飛鳥を視察のため湖畔林縁に2匹見られた。コウモリ

white-necked
 stork

21日(水)
Rupak
Pokhala

は全く飛ばすか。又月田君は、湖畔のハシミツウを6種ほど採集。小鳥も湖畔の奇妙なカミシの一種を採集。本朝は此山麓の海岸のサゴシ(イサ)の群生でもヒナがいろいろ(食糞など)。

朝6:30お花雨のPokhala空港機を降り。途中、川に(屋敷)の断崖に400m程の崖に鳥の巣を見。親か子かをいかに鳴いていた。

Rupak湖畔の山のボダイジュにはRhesus monkeyが巣をたぐひ集まるとカリ(10頭程)ボダイジュの葉(木形144ヶ採集)を盛んにつけて。群は1頭の成体(オス)と母親、オスの子(オス)とあつた。また畑の中を採食してゆくものもあつた(2頭)。

今日も途中の道を松林君はツシヤツシヤ、オスはTree sparrowを3つと1羽捕虫器で捕ら^{マント}2:30 Pokhala着。今日は山麓の雨は雷雨があつた。Pokhalaではバラバも降った程。Rupak湖畔林にて野鳥の鳴声を聞く。正高土人は~~鳥~~鳥も見出し、カスミもかみりてたつたという。

Pokhara. Annapurna Hotel 庭の石圍に沿って(ヒレハタキリンが並んでいり)に7つ4個。倉庫外側に1組set。夜つらつら飛ばす。

22日(木) Annapurna Hotel 庭の石圍に沿って Suncus 2 Pokhala Mus 1, 倉庫横に Rattus sp 1. 採集。

8:00より Yangza の湧水にミツバチを採集。松村君と先に行つたが、全く頭を出さず。正午頃 Yangza を登り午後1:30 Pokhara着。午後は休養。夕食は Annapurna Hotel での(1人5Rs)。

再び Hotel 庭の石圍に沿って3組、倉庫横に2組set。つらつらつらに飛ばす。13:30に150。後山にはインド人トラック運転手に薄型電池時計(セイ)3年使用のもの200Rsで賣す。日本で買った時計は1,3000円。また日誌の Transister Radio (7000円)を220Rsで賣す。これは家で買ったもので、賣値は半額3500円である。

明日は「おれ」カトマニである。飛行機は座席の都合でカレバ、ザンダーの2人が先に飛ぶ。後で便で我々の7人が飛ぶことになる。しかし本朝は非常に不安定な天候の瞬間がわかつていり、おれの存在によつても瞬間が変化する。この飛行機の荷物の運賃が安いのは大助かりである。本朝は人も非常に大きな荷物を採つて旅行の道のりが~~長~~高くては、とても無理である。

今日は40日ぶりくらいにヒレを飛ばす。インドに在りての飛行機は、いかにヒレもあつた。ヒレもあつた。

翌の部分のCTをみを残して全部をってしまひまはり
する。そり落し副山後山しん字ををってもらう。
今日はまた、安冠かとかしてしまひ物をかたのき、世
不便とす。今日は全く雨降らず、暑い。昨日と同じ

23日(木)

Pokhala
Kathmandu

朝9時の飛行機でかい。サンダーの2人が先
Kathmanduに飛ひ。我々も次の飛行機(10時頃)
に飛ぶ。2人で待つたが飛行機の到着は
次の飛行機か何時お茶の女子がわかつた。切符
も南の上空に飛行機が見えなれ。茶壺もない
有給である。途中3時過ぎにやつて飛行
機か(DC-3)パイロットから飛来し4時過ぎに出発
し。この飛行機は東子時と墨年2席は胴体の
両側に長い4人が2列に並んでいて。中央
に細長と荷物を持ち上げ全く輸送機並みである。
今日は、空の状態が悪く少しゆわたりで乗客の
一部には吐いたものもいれらうである。お茶をまわ
り Tibetan 2人が乗っているのも不い
風景。不い飛行機はバス並みという
とかはつたり好ぶる状態である。

飛行機の停留時間かたつぷりあつての2今日
は Annapurna Hotel の庭で。隊員相互の
席を囲み、又田⇒松林、松林⇒後山。
正當⇒所部というふう互に話をかり合つた。

後山は、この状態を字をいおさめり。
昼食は雨の Tibetan 食事をヤキソウとそばが
をってかここの料理は Annapurna Hotel
のものよりずと悪くまい。料金をまたずと
きりりり。 Pokhara の物を食う時はこ
すのりか最もよい。

夕方 Kathmandu の暮き、マラシーヒジ
ンに乗って Garden Inn の暮く。湯池
君はすに Gosainkund に行つて帰
きておりに先説を聞く。 Gosainkund
では湖の氷かはつたり雪か降つた
大雪寒かつたという。我々も衣類を相
用意して行く必要かあつた。
夜は荷物を整理。

24日(金) 今日1日持車庫の整理を行なう。哺乳類の標本の
Kathmandu ラベル書きを1日を終る。昼食は久石田と
キズンに注文して着地か銀212.75Rs. 550円
4Rs だという。明日4時止にかり。一日中30℃
位の晴天。Kathmandu はまた17時と雨か
降るすし。街はひどく乾燥に。ほこりか
すこい。

25日(土)
Kathmandu

今日午前中貝類の種を整理。午後手紙書きを終了。今日も一日天気はよく31°C迄。
朝食後下痢がひどいので右の2エマアルム3錠のむと下痢もあやうなようである。

Garden Innの庭の白いサカがまたのびかざり白虫で字を食う。Garden Innは訪ねた鳥の環境は大変よく Redvented bulbul, robin, ヤツガンシApottel owl スズメ等を見ることがある。branch treeの花が盛っていいのと、撃たぬはいつたことか子園であった。

夕食は今日もカレーをすつみせう。

元、昨年札幌にきたマニウが訪ね、札幌で借りた金(10000円)を返したいので借りた時の交換Rate 7.85と現在の10.0と、と55%もまけてくれた。結局9Rs:1\$で暮らすことになる。Garden Innの7+3Rsをかける

26日(日)
Kathmandu

Garden Innにて Sunco 1を採集(中が丸い) 今日手紙書き、明日からのGorakhpurへの準備を終了。(教室、博物館、自宅宛) 手紙をおいけて心には土産物店にリバーアールの南端のクリのターナー177個を買った。115Rs。夜Garden Inn上空を中程つらり、flying fox等が多数飛ぶ。捕虫網で捕獲を試みたが失敗。

夜10時ころからKathmanduの高級レストランIndiraホテルを飲みに行く。インド製Golden lionを飲む。おかしなうまみでいい。

27日(月) 今日から11日、Gorakhpur 2週間の旅行がある。Kathmandu バスを降り朝8時頃迎えられるというので朝8時15分に出発。15分前、実際に乗るのは何と12時頃、そこから荷物積み、バス事務所での2時間待ち。結局Kathmanduを出発したのは午後1時頃であった。その後も所々で2時間ほど休むので、全く金くずりであった。Trisuliの入口のcheck postでpackingしたものを箱を南に置いておくと若い警官がカートに乗りこえ、結局全部の荷物をあけて見せるとはなしてはまた、最初は30分だけ開けと云わされた。おま、30分間の警官署に行くと署長に説明しやると放~~ら~~ぬ。こゝでまた1時間以上時間をとられ、今日はTrisuli Bazarから上り歩くことになり、不可成りであった。Bazar横の川でCamp。こゝでは標高600mで大変暑く、14°C 湿度25%。しかし雷が鳴り、ほとんどの鳥は雨に降った。こゝでも我々は雨に降らされた。2週間前後は同じことばかりの時ばかり降った。7+かきす

280(水)
Trisuli
Ramche

朝6時朝食。6:30分 ~~まで~~ Trisuli 出発。
去茶副 Campste のマコウの木に採集の果木
Hoarybellied himalayan squirrel 一頭を
空気銃で採集。Campste 様のマコウの木を
では ~~用~~ 此れ以外の上頭ほど同じ種類の子リス
が藪に採食しており。6:30~7:00 まで観察。採集。
この時、お前のつらつら 2羽を捉え (Kathmandu
Garden Inn で採集のものと同じか?)
ここを去茶すると Trisuli River 沿いの上流
に到着。途中は耕地が多く、水田に落着いた
~~全~~ 10時向位歩いた所から斜面に上がり
こから耕地が多い Quercus (枝のない直立した
木の林) の林帯の向う斜面を上下しながら
トラハースレサレすの標高をあげ、途中は
耕地が多く、林は少ないので大変暑い 33~34°C。
Bonuwa と云う 2~3軒の部落の近く ~~の~~ ボダイ
ジエの下に産食。ここは小形うぐいす ~~の~~ yellow-
~~ed~~ rumped sunbird の一頭を空気銃で採集。
ここを 12:30 去茶 その後も同じような藪に畑の
耕地の向う斜面 (トラハースレ 畑 1~1.5m) を上下し
ながらトラハースレ Ramche と云う 2~3軒の部落
(1650m) の Camp。ここは 45° 位の急斜面で
大きな岩が多いので、やはり耕作して

29日(水)
Ramche
Bokajhunda

あり、あつてトラハースレ (1~2m) 畑があり。
この畑の周辺の岩の下に 15/12 set. (中 1/12 は
人家掘)。Bonuwa で 2 頭の Rhoemus murina
を見
29日(水) 畑の向うの中 人家掘にかけたりして Mus の尾 1 本
とれた。 8:30 去茶。月下に同じく Trisuli
川左岸の 40° 位の斜面をトラハースレから Dunche
の向う北上する。大部分耕作地で木なし。一部
~~は~~ 折れ折れ木の枝が有り。その向うの所では
鳥が多い。Thale (2000m) の折れ折れの小さな林に
2 匹 ~~の~~ common langur 3 頭を見
Thale の産食。その後もほぼ同じような斜面を
北上する。折れ折れ林が現れ、その向うの産食樹林に
て昨日 Trisuli の採集 (女と同じ) のリス一頭採集。
ここはサビアの一頭を採集。
Dunche の 2 mile ほど南の斜面林中に Camp. 2000m
近くのハンセ林(下に産いた)あり。一部水が流れて、
下には Rubus の bush がある。その他草本は水牛
のくわしほとんと ~~の~~ bush 中の落葉 4~5cm、
土湿気(湿度)に 7 才 35 set, 他に 2 才 7 set.
その他の林中の漂流沿者の下。産食 Rubus, 向うの
bush に 7 才 10/12 set. 夜 2 才 1 才 1 才
雨降す

5月

30日(木)
Bokajunda
Dunche東

Dunche南 Camp地 シヤクヤク^{一本}の広葉樹林
中の溪流沿いに2 Soriculus 3, ハンキ林
に2 Soriculus 1, アカサ mouse 1. 採集
今日は午前中に Duncheを通過 check postの
passportをみせ ~~10~~ 10時頃 Duncheから
東へ (gorainfund 寄り) の川辺 (1970m) に
到着して Camp。附近一帯は広葉樹林
川辺石の下にワナ set。比較的乾燥。下草
少ない。シダ一部あり ~~Swan~~ 河岸段丘上の麦畑
辺に Simons etruscus と思われる小形の
不²の死体を拾得。

Dunche 附近は本春の収穫はらつたと
雨パラパラ程ぬ。今日は銃で鳥の finch, 青ヒツ
ハブラー等を採集。

31日(金)
Dunche東

溪流沿いハンキ林 麓の向いのヤナリ¹に Soriculus
6, アカサ mouse 2, 同種蛙(?) 2。
今日は停滞日。午前中に標本作製。午後鳥採集。
ゴジクがら。ハブラー。赤褐色の鳥(夜鷹)等を採集。
夕方雷雨があり。かなりの雨量がある。溪流沿い
シダブツエ(湿)にワナ 8。林内落葉(5cm)中に
ワナ 7, 川沿竹小灌木群生地¹向にワナ 19。
Camp地近くの広葉樹林に後山さんが ^テ2頭を
見ると。屋敷のワラビのサシバヒイグサ¹を ^て7か
かみほり¹の金銀がわがわ。^(緑色)

6月1日(土)

Dunche東
Shin Gomba

川沿いのヤナリ^{一本}小灌木群生地¹向にアサ mouse 1。
Soriculus 1。
朝6時お覚 Shin Gomba 向う。Camp地から行く
45°位の登りを登り同じ村を登り連続。
Camp地の少し上 2000m 位の竹の川沿い広葉樹林に
Common langur の若10頭¹を見つる。
正當にはこの葉(2100m)でテンを見つる。その枝には
くまのゴウゴウ¹が現れ4頭¹で大きな木が少く
つてトヤの鳥¹灌木林を登る。この附近には鳥が多い。
この上の先にウマカシ¹がカシ。シヤクヤクの喬木林と
なつてこのカシ。シヤクヤク 2650m² Hoary bellied
Himalayan squirrel 2頭を見つる。その中1頭採集。
同様の林に 3000m 位の ²頭見つる。その 2800m 附近に
同種リス 6頭を見つる。中1頭採集。この附近 ²林中にナツ
ヤク¹の声もきこ¹ 3000m 近くにも同じリス 2頭を見つる。
その近シヤクヤク(小灌木、小形の花)のグズロ¹を登り。これは
は primula, 3000m の花が多い。この灌木林は ²針
葉樹喬木林と別りその林にはいり ¹と木¹の成長した樹
の竹におり。この ¹ Camp地¹ Shin Gomba 3200m。
昼頃から雨が降り始める夕方に ²大雨¹が降り始める。
Camp地の焼畑の斜面。溪流沿いの竹群生
地¹灌木群生地(標高50。家¹小落葉を ¹湿)にワナ 40
個 set。またシヤクヤク(5~6m)林群生(下草なし、乾)に
ワナ 11個。人家の栽培のワナ 8個 set。

又田、後山両氏の高山病はかきよくなり、正常の行動
 できるようになるが、山田先生は一日中寝たきり、食欲
 とほとんどなくなり、Gosainkundの麓に2天をたつたの
 は松林、正當、防部のみ。3人は食欲旺盛、しかし
 少し早くやむべきと、強烈な頭痛がすうに防部は
 用つてやすが必要。急激に弱くと酸素不足となつて
 後始か向い合はず。CO中毒と同様な症状と予言がた
 思われる。今日は一日ほとんど静養、休養の時向を
 して水たけやヤギ観察もほとんどない。

カルカ横斜面岩の向(草丈、つげ木など)より200ft
 500ft 1 set. 斜面には雪がふつ(雪点)植物として
 は、小形の *primula*, ^{3株}、4つ、12つ、4つ(播種) 12つ、つげ木
 2つ、つげ木1株、うら2つ、つげ木2株、マノ科一輪、エンゴウ等の
 食積、岩の割れ目境が冷たむ起つて、岩場には植物
 が少なく、コケモに似たもの、植物が少く、スゲも少ない。

5B (水)

Gosainkund
Tale Pati

カルカ横斜面岩場の山頂へは、雪道と登り、昨夜は
 比較的好く晴れていてせいらい。
 朝6:00出発 Gosainkundの山の雪道に登り、4520m
 の尾根を越えて、この天気は大変よく、カネシヒマルが
 遠望でき(北西方向)た。峠を越えてと雲はかきり深
 くなり、深い雪は7中を没する位あった。この下りは大変
 急斜面で、雪上にはヤギや、キツネの足跡が多数あり
 した。4200m位の所が雪止まりで、その下には700

か、雨け、カルカが降り出した。この2つ、ルリ色の
 芽、妙な鳥の群を見つけた。今日、早を採集、この日は
 山の赤いカラス(?) 2羽を見つ。ここを過ぎ更に急
 斜面を下ると、コケのあま小灌木が、現れ、2つ、2つ
 ヒノキ等の小灌木が、現れ、2つ、2つ、2つ、2つ、2つ、2つ、
 雨の降り始め。この雪を更に下り、は3700mを過ぎ
 て下り、雪の境があり、この下り、再び雪の降り下つ
 り、大変急、トラバースをする。12時、雨の中、
 谷倉、~~久田~~、後山両氏は再び、この頭痛は
 増え、セデスモの痛みをとり、この山頂へ
 斜面はトラバース、好長、路で、途中、2つ、2つ、高木
 林には、この下り、雨は、一般とはけしく、この山
 頂はよく雨が降って、湿度が高いたく、一面、この山
 頂、雪止、地衣も多い。同路を急、斜面の路を歩
 2つ、2つ、林の中の路を雨の登り、林は、1つ、2つ、
 雪止、この下り、雪止、雪止、雪止、雪止、雪止、雪止、
 ここから、草原と、つげ木、大木、カルカが、雪止、
 今日、キャンプ地 Tale Pati であり、(3500m)
 斜面下部、2つ、2つ、林、2つ、2つ、雪止、
 2つ、2つ、ヤギ(印、2つ) 1頭、4200m、
 同い、2つ、2つ、21 set. カルカの石、
 雨は、雨、雨、雨。

(日) 早朝 小雨降るがその後やや晴す。

Tale Pati カルカ内のかけたに4-20cmのナキウサギ1株集。外1株は
かけたりして Soriculus 小1株集。シヤクナギ林縁に
溝沿い(下草なし一面のツゲ等茂)でも Soriculus 1株集
朝カルカ内伝心でナキウサギの体1枚鏡に1株集。
午前中近くの茶畑(中15m 長さ50m)でナキウサギを
観察。こゝにはナキウサギも ad ♂ ~~juv~~ (カルカ附近
で1株集したものでよりやや大)2かみ54匹。午前中(約3時
同。午後3時同)観察したかどのナキウサギも一匹も取
かす鏡をうつとも警戒声も発しなかった。

午後も同じ所で鏡による1株集を1枚の ad ♂, ♀ ad 1を
1株集。他にもう一枚大形の赤い個体を獲ったが若の間
に逃げ込んだり捕獲できなかった。他の茶畑の ad ♂ 1枚
も1株集。ヒマヤナキウサギ中は鳴くが雄の鳴く。
Ulleri 2株集した個体の2-3回鳴いたのみ。
午後1:30-2:30 雨か雨か降り時々止む。

シヤクナギ林縁溝沿いに7-21。カルカ内伝心50m
内。今日は全気象分良好。他しおん存眼かには水長影
をにの。原因不明。夜カルカの中を1株集を1枚集。

久しかりのナキウサギのモヤノ地から Gosamband
の山々かよに見る。カルカ内を1株集。ナキウサギ
を2頭鏡にうつたかか胴部もうつたため2枚とも若
向に逃げたか1株集不能。ナキウサギの鳥居も。

7日(金)
Tale Pati
Kurumaan

2日(土) ナキウサギ 15時頃の雨止んだが、29.5
9時頃か10時頃まで。その後 Tale pati からの下り
3300m 迄のシヤクナギ林内路にナキウサギ一頭を
1株集。田舎の1株集。いすくも一匹も鳴いたものはなし。

8:00 年々よりカルカ Tale pati を出発 3500m ほど
のシヤクナギ林上縁に尾の長い赤い sunbird 1羽
を1株集。シヤクナギ林(上部には南苑中のもの少し)を下
と下部には湿度が高くなる木の生えにツゲか
一面に ~~ツゲ~~ 着生しており、その下に木のすぐ下から
アヒルに2匹ほど20-30m ほどのカシ林とナギ。こゝも
木の生えにツゲか一面に着生している。カシ林かやナギ
と人家が現れナギ牧草地が肉ける。このカシ林中
は湿度が高。落葉樹(ミズキ等、カマズミ等)の
か葉出し。その中は陰湿で落葉層。ツゲ層が厚く。
木の生え、木の根の先端地として好適な場所がある。
この林中にてヤマシメウ字を撮す。(今日は 3180m
の始のこの人家の近くでヤマシメウを見取)

カシ林を下へた 2500m の水が降り流れた所(人家より
、この煙草畑中。シヤクナギ畑あり)で Camp (Kurumaan)
Camp 地は尾根の上で東斜面はツゲ、シヤクナギ畑と
西斜面はカシ林がありその周辺部に落葉樹林
(ミズキ等、カマズミ等、ネジキ等、5-10m、下シヤクナギ等
落葉 5cm ツゲ層 5-7cm 陰湿)がありその下部は
215

8日(土)
Kurumsan

牧草地が成りてゐる。この広葉樹木林は7+40SD set. 夜小雨降る。
早朝は少し降る。広葉樹木林は *Sorculus* 大9
Mus 1 (くわしと昔のみ)、腹白 *Rattus* 2 種類。
よい天気は揮発がよくなる。今朝、毎雨で
湿度が(左)右の2はほとんど乾燥してゐる。今朝
今日の好天は少し乾燥がよくなる。今朝、
今日の停滞日は今朝の初雨の中つくりした
日だった。夕方の夕に雨が降り、雨が降つた。
広葉樹木林は7+40SD 人家横に7+5SD set
広葉樹木林は *Mus* 1、腹白 *Rattus* 1 人家横石
垣(池がくま大)にて *Suncus* 1。

9日(日)
Kurumsan
Patibangan

Kurumsan のキノコ地を7:00に出発。キノコ地
のすぐ下へも上へも同様なカン林があり、林は
はつたが一面は繁茂し灌木が多い。陰湿な林
林である。ここを過ぎると農耕地の石の尾根道となり
一歩下ると下へ下へ尾根道を下り、尾根道を下り、
何回も上下しながすすむ。やはり Camp と同じ
2500m の尾根上に倉倉、ここに雨はあり、その後
同様な尾根道を上下しなが Patibangan に
3時頃到着。ここには少し前に Tiger trap
か道の奥のくわしと昔のものを放棄、早稲掃帚。
Patibangan には check post があつた check 車

手りの斜面はすいて耕地の
幸の庭の camp 1820m。林 ~~ありか?~~ 幸の
境には ~~広葉樹~~ 広葉樹高木林が少し残つてあり、この中
に小川が流れてゐる。この溪流は7+20 set
(ほとんどなく、草もほとんどなく落葉も少なく)
ここもリス(種類は不明) 2頭がかりや鼠はいる。
葉は2SDあり、一方は広葉樹高木12~3m、他一方は
谷川を挟んで約20mは下へ下へ竹の上へ竹の高木はほぼ
同じ。Camp 地から下へ下へ途中 2500m 附近の
Oak 林にて正高木から21頭採集。雑草林
同様。

10日(月) Camp 地より上に登り、農耕地から長く山を越え、
Patibangan 下りながら林ははつきり、木は10m~15m 以下で、小川の
Kathmandu 運送が腐く、コケがまじり、やがて小川下へ麓に
近づくとも川の流の速くなり、小沢が多くなる。よい広葉樹
林がある。ここを抜けると雨の部落になり、ここを下り
と上水運貯水地 (Sundariyar に通) の倉倉
その後トクツクを4-7-15としかかるとさかた
ジープを4-7-15としかかると交通事故(バスとトラック)の
道が、カマンス平野の農耕地の中の道を通り、ここ
で近くまで竹のタケノコをひき、ここは Garden
Inn に帰る。
Patibangan には人家横に *Mus* 2 と採集。
Sundariyar には松林の路に *Mus* の子1と採集。

Sundarijar から 3-4 時間上の森林は大変よく
動物採集にはよい所である。川辺で Camp するの
がよい。Sundarijar には休車で行けり午
中によい林に行ける。

11日(大)
Kathmandu

午前中は休養。天気か良くなく、湿度か高いので
採集が軽かなくて困る。午後はうづら書きで終る。
夜はヤシロー、P=424-2 解産所へ街へ行く
は。Garden Inn のうまの菓をゴシキアウカ
いにくりの2 個を張り 1 羽採集。

12日(水)
Kathmandu

かまこ Shortnoosed fruit bat 1 頭採集。
今日も天気はあまりよくなく雨はぱらぱらと
小雨が一時あつた程度。今日一日は全く熱
さず。昼から ~~Boudnath~~ Boudnath Stupa を見物。

~~夜~~ 3 日郵を 230 Rs の巻。月計も 200 Rs で
重り拂う。Boudnath Stupa のまわりには
Tibetan の Souvenir shop が有り佛像 Tibetan
の銅板の暦 銀製の等々物店頭に見られぬ。こ
れがどのまじり土産物なく結局何も買はず。欠付。
後山は色々買つてゆく。新入りの P=424-2 個
採る。

13日(木)
Kathmandu

今日一日雨が早く比較的天気かよかつたので
採集を乾煙。一日中休養で後山は何もせず
た。後山 松林 涼風はホー 一人を客室内にて
10 分がオンの先 5 miles の山で 峰を見ればつたか

行く時はすこし早く 2 時 2 時 3 時 4 時 5 時
して帰つた。帰るハドがオンの急な由。
午後は採集して全然の Soriculus の頭 150
オウの肉はかして行つた。Shingola の
採集して中形 Soriculus は 残者不明。珍鳥
しいことかか。

14日(金)
Kathmandu

今日もほとんど何せず。一日中天気はよくない。頭
を採集して採集しての。夜は日本人 岸田氏の
採集して 11 時を過ぎた。帰つたのは
11 時を過ぎた。松林の涼風は、涼風が

15日(土)
Kathmandu

朝 8 時半に Godavari へ向う。後山は外
へ行く。Godavari のは前と同じ。寺の前は Camp。
採集は少しづつをくつた。採集は色々あつたが
とつた。モジラゲはよくあつた。採
集は 2 頭採集。前日採集した木の葉が
あつた。今回はすつた。湿度か高く
た。思ひの大形セキシ。大形カツウの
採集。夜は寺の前で、池の上を中形と大形の
2 種のコウモリ採集。Pohara の採集して
一頭と同じもの2頭。

Godavari

高 2.5 m

高 2.5 m
底層樹林の 樹木の上に 簡單な葉(木葉)を
採つた。Rattus sp (尾長)を採り、鉄線
の底層樹林(樹林 樹木の下のみ 3-5 m)

16日(日) Godavari
 17時20分set。今後はおち雨か降り続く。
 木ミミシとトナリ。午前中は比較的天気よ、松林君
 は Botanical Garden の キンタアゲハ 5 匹の地まがらを
 採集。午前中天気よかつたのでおち雨か降り続く。痕小か
 りで眠くししかたがなく。10時頃に睡眠。その後
 フラワーの採集製作。午後は久万田君と共に Godavari
 の中流に採集。山田、正富、松林隊員は夕方まで
 牛車にて Kathmandu に帰る。夕方、谷川の土に張
 ったカスミツバのフウエツ (昨夜採集と同種) 1 頭
 採集。今日は、カスミツバのフウエツ、Fire-breasted
 flower-pecker 等を採集。林道幸の周囲の石垣
 の下に 10 分 set。林内下層落葉少。

17日(月) Godavari Kathmandu
 カスミツバのフウエツ 2 頭採集。木ミミシ 10。
 午前中 Royal Botanical Garden に 2 蝶採集。
 キンタアゲハ、アオスジアゲハ等を採集。午後雨、おち
 らす。夕方 5 時、迎之に未だジープでカマコシに
 帰る。

18日(火) Kathmandu
 頭等採集。10 分 set をおち雨のため。夕方、銀の川に 2 頭採集。
 夜は、安原氏、松林氏、柴田氏の 3 人を迎之に
 ゼンキスコンを採集。雨乳。

19日(水) Kathmandu
 午後バグのジャラキーの 4 匹と 2 匹の昆虫採集物
 見物。バグ 25Rs。ヤクのぬいぐるみ 8Rs を買う。
 夕方 Tribuvan 大学動物学の講師 Majupurian

の家へ木ミミシの採集。山田、久万田 正富隊員と共に
 夕方、松林、阿部と庭の plum を採集。おち雨か
 降る。夕方、下層 (2 匹の子の 2 匹) の 4 匹を採集
 した。

20日(木) Kathmandu
 夜、バグの 4 匹の 1 匹を採集しておち雨か降る。
 久万田、松林、阿部と庭の plum を採集。おち雨か
 降る。夕方、下層 (2 匹の子の 2 匹) の 4 匹を採集
 した。

21日(金) Kathmandu
 朝 5 時 山田、後山、渡辺 帰路につき空港から
 飛行機にてカマコシに帰る。山田先生は Bombay へ
 後山先生は 22 日の飛行機に乗る。渡辺君は 26 日
 の船で日本へ向う。3 人が帰るの 2 部屋が一帯
 の静かさを。明朝は松林君が Lhakpa と共に
 14 日エの 2 匹の 2 匹を採集する。おち雨か降る。
 腹の調子が悪く金銀

22日(土) Kathmandu
 松林君今日 14 日エの 2 匹を採集した。おち雨か降る。
 お茶を延期。午後街へ買物に行きウグイス 2 匹を買う。

いすも水牛の角のヤシ 25Rs と 32Rs。夕方 Balaju River
 Bank の brush と weasel trap 2 匹をかける。Balaju River
 は洪水に浸る。河中一杯の水が流れる。おち雨か
 降る。Bank の一部がけすやとすこすこ。松林、久万田
 正富、阿部、三浦の 3 人を迎之に腹の調子を悪くしている。
 おち雨か降る。夕方、バグの 2 匹を採集。おち雨か降る。
 牛の調子はよくない。夜は平紙書きをする (安倍、山田、中村、阿部、一、
 新井、阿部(明) 桂田。

23日(日) Balija River bank 9 トロハヤニ
Kathmandu 午後は下と千路書きの絵を全部で2通エハチ
を出す。

24日(月) 朝10時出発 Teraiへ行く。2回田。王宮。師部。Karma
Kathmandu の4人ジープに乗る。白昼間車の旅行。午後4:30
Adabar Teraiのジャングル中のAdabar (300m)着
途中の農耕地や山の斜面はすっかり緑が濃くなり
新鮮である。途中、シワリク山脈の峠付近が
は雨となりひどい霧であった。ドライも木が葉が
出たので新鮮であり最初ここを通った時の
乾燥した、落葉した明るい林とは持相が
一変している。しかし木林内はあいかげず南けこ
に歩きやすい。下草は禾本科のチカヤに似た
しかしチカヤは大部分のチカヤが多い。落葉はほとん
どなし。雨期にははやり初めの感じ。土地の人
もまだ雨期ではないという。涸沢はあるが水のある
川が多く、大雨がある。一か所とと水がこぼれ
く最近も大量の水が流れた跡がある。

25日(火) 今日は一昨日ほど雨が降り続け雨期
Adabar はいっせ感じである。一時はひどい大雨となつた。
シロキウの仲間が来り。持葉。
Camp地には水道水(地下水?)がたまらず、人
々にあり、こから水を流し、水と成り、林内を

流れている。しかし水溜の横にも特別な草が
多いわけではなく、草が多い。
この水流付近のワタシ。その他林縁(小灌木あり)
(樹高100、葉が小、落葉なし)に15 set
朝Camp地にてシカ1頭見たり。またシマリス(頭
を持葉(Finestriped palm squirrel,
Funambulus pennanti)。このワタシは森林内
でもワタシ林縁には多く、50%は平地前とみ
て盛んに鳴きあひ。一本の木に3-4頭もいるこ
がある。シマリスの他に先流を捕ましく、地上に
いびいび下りたほか、ワタシは木から下りて地
上を走りまわることが多い。

26日(水) 林縁部材木(大木)付近のワタシ Suncus,
Adabar Rattus sp 1 (腹は白)、Indian mole-rat,
(Bandicota bengalensis) 1 を持葉。
この林、木置場の付近には水溜りがあり草が
生え茂っている(樹高100、葉が大、運交通)。
mole-ratは穴を掘っている。また森林内にも
チカヤの土を盛り上げ、土断があり mole-ratの
掘った穴と根が通る跡がみられた。
今日は全く雨なし。腹の調子はいいが、お
よそなく持葉、屋敷のチカヤ、チカヤを長く、お
たかつた、腹にかすが、掘って、急ぐ、急ぐ

6月

正富さんと同様に喉の痛みを訴え、又万田君は風邪で夜高熱の病を患へて一日中ねたきり、全く病人部隊みたいである。食事後は正露丸、三共胃薬、ビタミン等を飲み流汗のせいか一向に汗が乾かない。

林縁丸太屋敷のり+20 set
Bandicota 1, Suncus 2, Mus 1 採集。

林縁に Finesstriped palm squirrel 2頭採集。今日も全く雨降らず、しかしやや風が吹いて比較的涼しかった。

林内にはシカ道があり新しい足跡がまだ見られた。正富さんは Chital 5頭の白斑の角をもったシカを見た。またジャコウネコらしい足跡も多く、正富さんは一頭目撃。

正富さんの腹の調子はあんなに悪く、又万田君はペニシリンを飲んでかなりよく字子。阿部は昼食後テトリサールを飲んでからは腹のはりはずかた。夜もテトリサールを飲む。

●森林内にはシカ道が多いから、トリアサミ 2個 set。林内には Common langur 計10頭、青いカゲス、オコウ、等7羽採集。

トリアサミ 0。どなたも胃腸の調子がよくないので、11時ジープを4ヤ-7にして外マズに帰る。

29日(木)
Adabar

28日(金)
Adabar
Kathmandu

6-7日

ジープの修理通して6時間止めて長い道のりである。外マズに帰る。夜は Himalayan Restaurant に行くと、食卓をくうま、焼飯もほんの少量でつけたり、又万田君のみ食卓あり。夜12時を3時かかして鳥の骨を1ヤ。

29(土) 正富さん、阿部とも胃の調子は良くならず、食卓ほとんどもなし。朝は、富厚さんからいかにいかにムシゴキを一杯と、昼はパンを3枚ばかりと、夜は全く食卓なし。又万田君のみ食卓旺盛。ビタミン、三共胃腸薬、アイトリンを飲む。今日は一日中ねて過す。

30(日) 午前中は胃腸調子が悪くねて過したが、朝からの始めはビストカインかきき始めると、午後には比較的調子がよくなり、午後には宿務の整理を行なう。夜はインスタンターメンを飲むと、食卓も2で気分良好となる。

1日(月) やや胃の調子もよくなり、頭骨押を10日ばかり、Kathmandu 下つたので雨が悪化。しかしビストカインは比較的よくきき、食卓はかなりある。夜10時吹ろーメンを5ヤと飲む。

2日(火) 食卓は出子か胃かもとれた感じ。今日は午前中、標本の整理。右腕軟骨とヒトヒト。Kathmandu (Balaju) ネズミ8種、食虫類6種、十キウサキ1種、リス3種

ネズミの系統が意外と少ない。ネズミは
ネズミの分類は17~18種は記録されて
いるが、そのうちネズミの威嚇音は Terai の他で
もう少し異なるが、父音がある。しかし小型のネズミ
は意外と多かった。後つかは新記録のもの
か含まれていないものも多し。

又 Balaju River bank へトコバサミ2匹
ハコフナ5匹を set.

祝賀の序章の歌を唄つてもうすぐ（新録）
後のヒゲツリだけ2Rs)

3日(水)
Kathmandu
(Balaju)

Balaju River bank へ *Bandicota indica* 1
Specimens 1 採集.

午前10時~午後3時 Tribvan 大学に行き図書
館の J. Bombay Nat. Hist. Soc. の一書を閲覧し
と思ふが、最近の2 volumes (かなり古い) あり
る。図書館は立派な建物で大学も構内は
丘の上にある。ここには（あり）きわまりない
である。現在も建設中である。敷地のホッ
ホッと各 section がある。Majipuria 講師
の会。

4日(木)
Kathmandu
(Balaju)

Balaju River Bank へ *Suncus* 1 匹。 *Bandicota*
の穴は径 9x8cm, 10x8cm ほどで所々に径 40cm
ほどの皿形のくぼんだ穴場（休場）あり。

また Garden Inn の庭へ。家から 70m ほど
近くのサトウの一種の葉みはいつた *Rattus* sp.
の患。このネズミはサトウの葉み（木性サトウ）
上部に 20cm ほど（葉み）をたぐり（？）でうぐりま
り（昼前晴天）で空を飛ぶ。Godarari
で木の葉みをついてたぐりと同種のネズミと思
われる。今日は胃の調子も比較的よくなり、気分も
良好。

5日(金) 朝9時出発ジープにて Sundarigar 上の
Kathmandu に向ふ。正富、阿部の3人で行く予定であ
る。長か正富は下宿か再びの心なつたので同行
をとりやめ、Kathmandu 滞在。久木田、阿部が
ホッポ2人計5人で行く。10:30 Sundarigar 着
り始め。11:00 貯水池の着き倉倉。12:30 比
古茶にて久木田阿部が先行して途中の道を
まわると、真上の上の登つて尾根道に出る。その
再び引越して右の入り口で Karma 達は
ありはかなり林内深くまではいってあり 1890m

Namote
~~Namote~~ Khola
河畔

Kuinibisoma の川辺でせや (同じ土所) Camp. 川沿いの
マダラヤ。カシ羊の産草林内へ 104m ほど 35.
ハコフナ5匹を set. 林内は湿気高く、落葉は比較
的少ない部分約 5cm ほど。下車は大型のマダラヤ
小灌木が群生、林内は密な小。

6日(土)
Kuinibisona

川沿葉樹林にて Mus sp 1, アカ野鼠 Rattus 1,
Soriculus nigrescens 5. 採集. また小さな溪流にて
午前7:30頃 Chimarogale platycephala
himalayica 1 を平つかみ採集.

この付近には Namote Khola にそそぐ小溪流が多数
あり二十はカリネズミの穴見地として好適な
溪流がある. 午後は大雨あり. ヤマアヌ 1羽
などの白ハツグニ sp. 1羽を採集.

この付近の林は 5m ~ 15m まで高くはなから
木の幹はきわめて多く(常緑樹のみ) 何の木の葉も
はびきない位である. 常緑 経木草は比較的少なく
落葉も少ない. 湿度高く木は一面にツケツケ
地帯にはツケツケ

午後の大雨で Namote Khola は増水し溪流と
なつたがカリネズミの穴と溪流は全く隔つた
大雨の雨と同じく清流である. 水量の増加も少
なし.

7日(日)
Kuinibisona
Kathmandu

川沿常緑葉樹林にて Rattus sp 1, Suncus 1
Soriculus nigrescens 1, Chimarogale 1.
この常緑樹林には Namote Khola にそそぐ小流
流が多数あるが二十はの溪流には 1~2 頭
のカリネズミの穴見地として好適である. 午後1時 Camp
地 (1890m) を出発下山. 4:00 Sundarigar

5:40 までかまこに帰ったが 4:00 頃か
大雨となり夜もつらと降り出す.
川島F4ハが中受取り.

8日(月)
Kathmandu

今日一日中天交よく雨全くなし. 午後、バヤワ
ギールの4バタン土産物市場に行き、マツト2
バツグ3を買つた. マツトは1つ3Rs. バツグは
25Rs. Garden Inn の庭に大穴を掘見トラハサエと

18
6.5m
9日(火)

Garden Inn の庭に大穴を掘見トラハサエと
Bandicota indica の穴1頭採集. 午前中採集
作業. 午後2時過ぎに某のカマコシ市内西北部の
丘の上にある Swayambhu Nath Temple へ
行く. ここは Rhesus monkey が多くボクグシ
穴の多数集つていた. 午後3時過ぎに下
見の穴かきまき. 幸い登り階段の横の下の
穴(上向)に Magpie robin が巢を造つてあり
若いヒナ3羽が見えた.

10日(水)
Kathmandu

早朝からひどい下痢が雨が止まり午前中
便所へ行った. 朝からテラヤギールをのみ
始めたので昼頃から下痢はおさまり午後
からはひどく空腹となつた. 午後6時過ぎ
しかしほどほど一日寝ておさまりを採集
かつた.

11日(木)
Kathmandu

久万田君は今日から再び Godavari へ泊
の持参。そのタグシでパンを2つ作り
ジャワスターンに2等リ泣うたを物色し
たか通車券のかわりに高いと高価のたり
買うのはよし。その足でパンの作りか
行き小形ウクリ6本を買う。最初1本20Rs
と1つはか 結局18Rsに決切子。面も2枚
買ハバズで外マズもどろ。アサンのククリ
屋で水牛の角のサヤのついた小形ウクリ
2本を買う(1本14Rs)。このぐいすは土産物
か撮つたか 牛の大便が8割2枚リ頭を
悩ませ。あと石をばりこんだシシの像
2個位とネフラスを買いせいと考てたか
ルピが足りず明日ドルを換金してから買
うことにした。
今日は ずつとアトクアールをのんびりせいか
腹の調子はよいか。下痢があまりと
今後は便秘が始まったらしい。芝居
隊を巻くにか。下痢が止まらなければ
便秘で苦しむおかしな腹具合である。
しかし食欲は結構あり。夜は正富さんと
Everest Restaurant へ Mixed Tamen
をたのむか 全部たのむか。

夜は夜食のピストをたのむか 食欲七折
胃腸で少し心配 ~~な~~ なくした。

12日(金)
Kathmandu

腹の具合もよくなり 今日一日土産物買ひんす
きばかり。シシ2SR (44Rs), トル石1枚(44Rs)
を買う。シシは防疫協会と川島、石は玲子の
ワンダイト用。2枚ネパールで買物を終り
やつと安心する。危すまぬ久万田君かかると
又 Godavari へ帰る。夜は又最後
Indira Restaurant へ行つてビールを
飲む。土産物店で西地8本懐中電灯1個22Rsを買ふ。
いよいよネパール最後の日と存子。ほんとは

13日(土)
Kathmandu

(可も)車いすを一回か過ぎ子。 ~~本~~
午前中、教養(20Rs)4, 松井、5日田津、西氏に給
ハカキを書き出す。午後久万田君とネパールの
古い切手を買ひにゆく。ネパール最古の1886年
第1号の6枚セット(10Rs)を2組買ひ、また
7ページの first issue 切手2枚を買う。
いす4脚、卓、椅子の土産である。
夜は宿屋の夫妻の招待でカフスウイ 北方の Base
Restaurant に行き支那料理を御馳走にする。

14日(日)
Kathmandu
Birganj
Raxaul

朝7時のバスでカカズを乗。2本20本と雨が降つて
全くいやな朝である。久万田君はアトクアール
と同行、バスは郵便局の近くの Kings way から

16日(木) 昨夜はすつとむし暑く、着ていすものか^汗が^汗まじりとなつていた。
 車窓からみよ平野は、兩側が谷のなだらかな川がはらばら
 におり、谷間の水溜りかたまりの川が星を
 散らす。代かき中。
 Calcutta (Haurah) AM 10:40 Haurah 駅に到着(定刻)。まずポーターに
 荷物と運ばせて Croak room に荷物をあずけ
 ず。ポーターは 25Rs を要求したが 4Rs をせめて
 払い拂う。その後先ず新加海軍の丸山とん
 電報をしようとして正富とんか何回も電報をしよう
 事務所の人も、家の人もつかまらずに二かどき
 ず。もうもれし二時中には夕方と隣近くのやつた。
 ここに Lytton Hotel を予約しようと思つて電報
 をしようとしたら、運賃が 34 の所へ運ぶつた。
 駅の前公衆電話は、おかしな小ぢりなものは、
 役に使えず、かほんとはつかしなやつた。
 うまく使えなかつたので、今と人達は電報をばいば
 したくのでよけいにかかすし。
 仕方なくタクシーで直接 Lytton Hotel へ行
 う。メーターで駅から 2.7Rs だった。駅の
 タクシーは最初 10Rs だったつたといつてたやつた
 がある。Hotel にはすぐ部屋かたれかたれ
 大きな部屋で、これは高いやつと思つて二つと
 隣の部屋に 55Rs たといふ。これは二つと
 七つはつたやつた。夕飯前に Cambridge 書店

組し2人分
 の55Rsと
 324Rupee
 の1)

17日(水)
 Calcutta
 Fauna of India を探して行つた。これは
 なく、鳥類園の本が支那見すかた。The birds
 of the world, The birds in the sun,
 The birds in my Indian garden, etc.
 午前10時過ぎ Indian Museum へ行き Director の
 金目動物の標本を見たいといつて案内人へ行つた。
 動物の Gallery を見せくつた。標本は Bombay
 の博物館と似て居る。動物はほとんど
 面白いやつた。考古学の資料が面白いといふ
 見なかつた。その後 Dr. Biswas へ会い色々と
 聞いた後、Mr. Saha へ案内されて、近頃の
 動物の Zoological Survey の動物の研究室へ行
 き、探検した標本を同定しようと思つたが、
 職員が多数集まつて標本をばいばり、
 二つと居るやつた。午後2時過ぎつた
 りまかした。結局はつた。たのやつた。Apodemus
 flavicollis gurkha といふのが grey mouse だ
 といふのが、標本を比較してわかつた。また食虫類
 の Soriculus caudatus の標本を比較して間違
 ないといふのがわかつた。鳥のものは全く
 Fullerian の本を見なかつた。色々とわかつたが
 Genus までわかつた。わかつた。わかつた。わかつた。
 金目をばいばりなやつた。二つと居る

22を22、市へとなりLytton Hotel の1階の
 倉庫をとり、その後 Park St にある Oxford
 書店に行き Butterflies of the Indian region
 (28Rs) を買う。インドの印刷した本は大変多い。
 書店には、この島の本が「非常」多いが、因ら
 ず、一般書の中に混って鳥の本が、多いと
 ころ。これは買うのが、なるといい。

夕方 Hotel の1階で、客の混雑は、この小島
 部屋を経つてくるといい。今は、この小島、本は
 一部屋の「ベッド」をも一つ入れ、おいてある。
 穴くろみ、なす、カゴ、果物、冷蔵庫は、ない。
 但し、冷蔵庫は、no charge である。
 先は、この部屋から、非常、大なる、部屋
 中の一部屋、なす、ベッド、か、4つ、あつた、の、す
 よ、すき、た、の、か、む、お、中、ない。

18日(木) Calcutta
 今日、雨の Zoological Survey へ行きて、この島の
 の、調査、を行、な、す。10時～1:30 頃、雨、か、か、つ、
 ない、この、島、も、な、さ、ない、な、か、つ、
 折、折、折、と、比較、した、り、
 大、手、は、この、調査、を行、な、す、か、
 ち、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
 がある、~~本~~ Agrawal 氏、を、始め、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、
 非常、な、splitter) の、Tapaia の、毛、の、変更、など、全、
 内、陸、に、な、す、な、い、早、な、小、島、を、変更、を、向、題、に、し、な、か、
 研究、に、な、す、か、研究、の、内容、は、海、調、で、あり、面白、い、

は、な、い、さ、う、な、男、と、つ、て、Agrawal 氏、の、論文、を、読、み、
 たり、Ellerman の Fauna of India Vol IV Pt 12
 Rodentia (Rs. 46) を、購入、す。午、後、は、本、屋、を、見、つ、
 19日(金) Calcutta
 早、朝、6:00～8:30 頃、動物、園、を、見、学、す。園、内、の、大、
 本、か、さ、か、さ、さ、か、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 野、生、の、ウ、サ、ギ、の、コ、ロ、コ、ロ、コ、ロ、コ、ロ、コ、ロ、コ、ロ、
 じ、か、の、提、は、~~長~~ 園、内、を、入、り、な、り、始、め、の、所、に、
 ち、か、一、路、の、ツル、の、籠、に、お、か、き、な、り、混、つ、て、入、り、
 ツル、一、籠、は、学、習、の、中、で、あ、つ、た、。打、つ、つ、つ、の、コ、ロ、
 ち、か、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 野、生、の、他、野、生、の、鳥、類、(ハ、ク、ワ、シ、Myze, かつ、ferbet, 等)、
 か、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 朝、倉、に、Museum へ行、き、正、富、子、か、之、配、務、員、
 Ann. Mag. N.H. や Calcutta J. N.H. 等、の、文、献、を、読、み、
 上、の、鳥、類、部、門、の、Saha 氏、の、本、を、見、つ、つ、つ、
 か、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 10時、頃、Hotel を、check
 out し、丸、山、土、ん、の、所、に、3時、頃、入、り、な、り、
 下、宿、に、さ、
 り、ま、つ、た、水、管、さん、丸、山、さん、山、下、送、船、の、人、
 した、倉、庫、を、お、見、な、す、り、Hotel の、中、華、料理、を、た、
 げ、く、
 今、の、後、雨、の、Museum へ、行、き、
 Dr. Biswas 氏、に、会、つ、て、お、礼、を、い、い、
 下、の、~~本~~ Mr. Saha 氏、は、大、変、お、世、話、な、り、

その漢語の本屋の何き色々揃いが新しい本は見つか
りた。夜は水谷さん、丸山さん等々うたが、恵師
の屋敷の(9) 本業の(2) 本業の(2) 本業の(2) 本業の(2)
あり。● 貴客宿を(2) (2) は(2) 然(2) 然(2) 然(2) 然(2)
らしい。その後丸山さんの部屋に2時頃までたづね
た。夜は上(2) 寝(2) 寝(2) 寝(2) 寝(2) 寝(2) 寝(2) 寝(2)
時間しか眠れなかつた。

20日(土)
Calcutta
再び胃の調子が悪く、異常発熱にいたつた。
午前中、午後と本屋をまわつた職を(2) 不(2) 不(2) 不(2) 不(2)
18:10 Calcutta 発 Madras Mail に乗り Waltair
に向ふ。この汽車は比較的きつ(2) 運(2) 運(2) 運(2) 運(2)
比較的清潔であつた。

21日(日)
Waltair
12:30 Waltair 着す(2) タクシーで New Japan Home
に向ふ。こゝは誰もいないので(2) 休(2) 休(2) 休(2) 休(2)
その中、小島さんと、加藤さんと、(2) 宿(2) 宿(2) 宿(2) 宿(2)
取。取(2) は(2) 外(2) 外(2) 外(2) 外(2) 外(2) 外(2) 外(2) 外(2)
ずして、荷物を(2) (2) 荷(2) 荷(2) 荷(2) 荷(2) 荷(2) 荷(2) 荷(2)
さんさんが(2) (2) が(2) 局(2) 局(2) 局(2) 局(2) 局(2) 局(2) 局(2)
風呂にお入(2) (2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2)
New Japan Home は丘の上
より景色もよ(2) 高(2) 高(2) 高(2) 高(2) 高(2) 高(2) 高(2) 高(2)
で(2) (2) の(2) 美(2) 美(2) 美(2) 美(2) 美(2) 美(2) 美(2) 美(2)
入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2) 入(2)
こゝは、Calcutta より(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2)
き(2) (2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2) 雨(2)

22日(月)
Waltair
14:30 の Exp で Madras に向ふ。今回は初号の
III class 大(2) 大(2) 大(2) 大(2) 大(2) 大(2) 大(2) 大(2)
変(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
眠(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

23日(火)
Madras
11:45 マドラス着。駅舎まで電車(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
Madras Room を(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
Hotel (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
多く、(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
Main Street の Mount Road は(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
い(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
数(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
街(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
本(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

24日(水)
Madras
午前中、海岸や市内南部の Deer sanctuary
を見(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
ソウ、plate 等(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
220 余(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
か(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
夜(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
か(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
取(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
に(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
に(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
を(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

25(木) berthがこたえて眠ってはいきかもの取扱文の
ため足腰が痛い。13:25 Waltain着
Waltain
駅舎裏の昼食後タクシーで New Japan
Houseに向う。汽車で4Rsのタクシーはここか
わかつたのでタクシーは5Rsのタクシー。タクシ
ーに乗る。しかし New Japan House へ乗
ると1人5Rsとて ^{乗車料は11円}と乗車料を
掛ける。船は明 ~~朝~~ ^日 出航。
26(金) 朝 Moorherjee の所へ行って見ると ^{船が} 乗車料
Waltain
かかるので明朝乗船するといふ。
一日船待ち。
27(土) 朝9時過ぎに港。昼頃着岸。もし土曜の
Waltain
ため今日は乗船できず。午後船(鉄洋丸)
まで行って船長に挨拶をすませる。船長向
いては通り。船長は1ヶ月前に揚子江の
事。頭がきつ。解信家と、極端な合理主義
者のように見える。会社としては少し船
船長がも知小なりが人間的にはあまり興味
を誘わなかった。今夜もまた New Japan
House へお世話になった。

28(日) 10時頃洗行き通園を回り船に乗る。昼食は船で
Waltain
したか久しぶりの日本食。やはり格好い。米の
米のりまいののは改めて感心。ネーブルの米はまた

右が小さく、今10の米は全くどうも乗るまい。
水はほくほく味がなく全くなつて気がしなかつた。
しばらく熱睡してはなかつたので船に乗ることに眠
つた。乗船して落着いたのでよく眠れた。

29(月) 今日一日中眠ればかりであった。こまめに
Waltain
(か) のアタのオテル(米) 十分眠つてはなかつたので。
食事時間以外はずっと眠りつづけていた。

30(火) 朝10時に出航。港を去るにすぐおなやゆめ
Waltain
おなやゆめのアタの横を去るにすぐおなやゆめ
讀んでおいた。

31(水) 一日中船はゆめゆめの船の横を去るに
一日中アタの中。正高さんにも食事できず。

8月1日(木) 今日一日中船はゆめゆめの船の中。アタの
やゆめゆめが少しなり正高さんも食事をす。

8月2日(金) 海は静かになりほとんど船もゆめゆめ。
買った本を讀んでおいた。

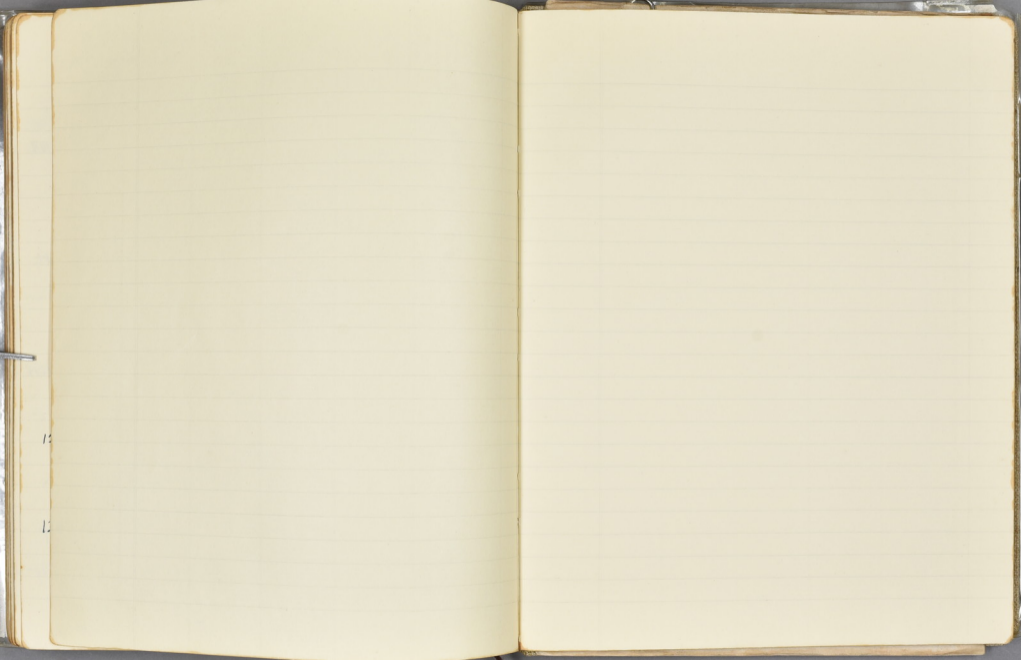
3日(土) 一日中通園讀みの他の読書で過ごす。

4日(日) Fauna of India のおと 採集標本を少し調べたが
Rattus の仲間が腹の白色又はgreyの色の中には
R. rattus subsp.
R. nitidus, R. rattoides. 単に Mus には
M. cervicolor と M. hoodya の2種があるとい
こともわかる。Microtus の種名は不明。どうも

イト〜エニマ地方からは未記録のものらしい。

12日 午後横浜沖へ検疫を終り君津港沖に投錨。
今日は未だおとなのこ接岸びさず。夕方 custom
officer が ~~乗船~~ 乗船して通関。土産物のみ
check.

13日。午前9時接岸。しかし Immigration 係の手続きな
どをいって正午ごろ上陸。すく木更沖にタクシー
をこぼして荷物を通り、正富までは流車と車軌
両部は ferry boat で川上へ送り、利田へ向
7:25 の日航機へ札幌へ帰る



12

12

Dr. V. C. AGRAWAL (~~XXXXXXXXXXXX~~)
Mammal section ~~XXXXXX~~
& Lindsay street-
Calcutta-16 (India)

大#
Rattus
腹白鼠
8 - 121
9 - 217
30
105
109 (♂)
108 (♀)
109 (♀)
110 (♀)
111 (♀)

Mus
5 50
10 74
18 75
19 76
23 77
24 78
25 112
26 122
27 159
28 168
29 206
31 204
208
222
235

B. indica
225, 241

Soriculus
caudatus
①
48
94
95
150
162
163
174
186
187

Soriculus
leucopus
② (♂/♀)
49

Soriculus
③
161

S. nigrescens
45 92 137 197
26 93 138 198
47 96 139 199
59 97 140 200
73 98 145 201
86 129 151 229
87 130 164 230
88 131 193 231
89 132 194 232
90 135 195 233
91 136 196 238

Chimarrigale
234, 237

Suncus
strucosus
134
Suncus
murinus
6 123
7 124
16 125
17 216
32 219
35 220
36 202
51 226
52 227
85 239
103
104
113
114
116
118

Dremomys
lokriah
128
148
149
205

Callosciurus
pygerythrus
126

Funambulus
pennants
215
223
224

Ochetona
roglei
101
171
172
173
180
181
182
183
184
185
189

Apodemus
flavicollis
gambica

Rattus
ulivaceus
T.P. 22 38
腹白(71-4)
39
83
84
100
60 133
61
62
63
80
141 (♂)
142 (♀)
143
144
146
191 (♂)
192
203
236

Rattus
sha
背赤
腹灰
中灰白鼠
41
155
156
157
158
169
170
Rattus
sp
61
160

Mionotus
39
40
42
43
44
45
52
53
54
64
70
71
72
82
82
99
175
176
177
178
179
188

大#
Rattus
腹 FR
37
38
53
54
58
65
67
68
69
106
117
228
240

- Corbet, G B 1967
The pygmy moles of Europe and Japan
Jour. Zoology. Proc. Zool. Soc. London
vol 150 Pt 4 567-568
- Bolkay, S 1921
Preliminary notes on a new mole (*Talpa hercegovinensis* n.sp.) from central
Hercegovina. Novit. Mus. Sarajev 1:1
- Chaworth-Musters, A 1932
A contribution to our knowledge of the
mammals of Macedonia and Thessaly.
Ann. Mag. Nat Hist (9) 10: 166-171
- Deparua, NK 1959
A new mole from N.W. Caucasus, Byull.
mosk. Obshch. Ispyt. Prir. Otd.
Biol. N. S. 64 (6): 31-36.
- Niethammer, J 1964
Beitrag zur Kenntnis der Kleinsäuger
Nordspaniens. Z. Säugetierk 29: 183-220
- Niethammer, G & Niethammer, J 1964
Der Zwergmaulwurf (*Talpa nigra*), ein
neues Relikt aus Spanien.
Naturwissenschaften 51: 148-149.

E ^{60 - 300 m}
200 - 1,000 ft. (Tropical Terai Plains)

- ① Sloth bear (*Melursus labiatus*)
- ② Indian civet (*Viverra zibetha*)
- ③ Rhesus
- ④ Hog badger
- ⑤ Golden cat
- ⑥ *Panthera tigris*
- ⑦ *Panthera pardus*
- ⑧ Indian Porcupine (*H. leucura*)
- ⑨ Rhinoceros
- ⑩ Arna (*Bubalus bubalis*)
- ⑪ Black buck
- ⑫ Chital
- ⑬ Barasingha (*C. duvauceli*)
- ⑭ Hog deer (*C. porcinus*)

- ⑮ Hill pangolin (*Manis aurita*)
- ⑯ Indian wild Boar (*Sus cristatus indicus*)
- ⑰ Musk deer (*Moschus mosciferus*)
- ⑱ Jharal (*Hemitragus jemlains*)
- ⑲ Himalayan langur (*Presumpithecus schistaceus*)
- ⑳ Hodgson's flying squirrel (*Pteromys magnificus*)
- ㉑ large red flying squirrel (*Pteromys inornatus, albiventris*)
- ㉒ Himalayan Serow or Thaar in Nepali (*Nemorhaedus bublinus, sumatrensis*)
- ㉓ Goral sheep (*Nemorhaedus goral*)

D ^{300 - 1500 m}
1,000 - 5,000 ft. (Tropical Highland zone)

- ① Brown Ferret badger (*Helictes orientalis*)
- ② *Mustela subhimachalana*
- ③ Clouded Leopard (*Neofelis nebulosa*)
- ④ Panther (*Panthera pardus*)
- ⑤ Tiger (*Panthera tigris*)
- ⑥ Himalayan porcupine (*Hystrix hodgsoni, longicauda*)
- ⑦ Indian wild boar (*Sus cristatus, indicus*)
- ⑧ Pigmy hog (*Sus salvanius*)
- ⑨ Muntjac (*Cervulus muntjac*)
- ⑩ Chital (*Cervus axis*)
- ⑪ *Nemorhaedus goral*
- ⑫ *Cervus unicolor*

Map showing the distribution
of Mammals of Nepal

- A. ^{2500-5000 m} 15,000-20,000 ft. (Alpine zone)
- ① Yak (*Bos grunniens*)
 - ② Chiru (*Panthalops hodgsoni*)
 - ③ The ~~Q~~ Tibetan gazelle (*Gazella pincticaudata*)
- B. ^{3000 m} ^{2500 m} 10,000-15,000 ft. (Temperate zone)
- ① Bharal or Blue sheep (*Ovis Bharal, nahuva*)
 - ② Chiru (*Panthalops hodgsoni*)
 - ③ The Tibetan gazelle (*Gazella pincticaudata*)
 - ④ Musk deer (*Moschus moschifericus*)
 - ⑤ Snow-leopard (*Panthera unca*)
 - ⑥ Brown bear (*Ursus arctos*)
- C. ^{2500-3000 m} 5,000-10,000 ft. (Sub-tropical and Temperate zone)
- ① Mole (*Talpa micrura*)
 - ② Black bear (*Ursus tibetanus*)
 - ③ Panda (*Ailuurus fulgens*)
 - ④ Brown ferret-badger (*Helictes orientalis*)
 - ⑤ White cheeked marten (*Martes flavivula*)
 - ⑥ Himalayan weasel (*Mustela ^{sibirica} ~~amblymaculata~~*)
 - ⑦ Yellow bellied weasel (*Mustela kathiake*)
 - ⑧ Hill Musang (*Paradoxurus grayi*)
 - ⑨ Goral sheep (*Nemorhaedus goral*)
 - ⑩ Jarayo or Sambur (*Sacruvas unicolor*)

LHAKPA TENZING SHERPA.
ASAN-CAM-~~LA~~ CHHI-TOLE.
NO. 11-143 KATHMANDU
NEPAL.

戦後のエクスプレディション
を主導したシエルベック

- Wroughton, R. C. et al
Bombay Natural History Society's Mammal
Survey of India's Reports 1-46.
J. Bombay Nat. Hist. Soc. vol 21, No 2 to
vol 33 No. 3; 1912-1929
 - Wroughton R. C. et al.
Scientific Results from the Mammal
Survey. No 1-49. J. Bombay Nat. Hist
Soc. vol 21. No 2 to vol 33. No 3 1912-1929
- Nepal National Commission for UNESCO.
Regional Seminar on the Ecology of
Tropical Highlands (organized by HMG &
UNESCO, April 1968)

- Simpson
Palearctic and Indian Mammals 1758-1946 1113 理. 中. 央
- Deoras, P. J. 1965
Snakes of India Rs 9.50
- Baker, E. C. S. 1924
Fauna of India Birds vols 1-8 Rs 31.5 each
- Smith, M. A.
Fauna of India, Reptilia and Amphibia, vol. 3 Rs 40
- Flower, W. B. 1966
Osteology of the Mammalia Rs 80
- Gee, E. R. 1965
The wild life of India Sh. 30
- Chakrapany, K. G. 1962.
Snakes of India and Pakistan Rs 9.5
- Gregory, W. K. 1957
Fish skulls - A study of the evolution of
Natural mechanism \$15.
- Blanford, W. T.
The fauna of British India, Mammalia
- Pocock, R. I.
The fauna of British India, Mammalia, vols
I & II
- Jordon, T. C. The mammals of India

de. Winton & Styan 1899.
P. Z. S. 573 (*Nectogale sikkimensis*)

◦ Horsfield 1851
Cat. Mamm. Mus. E. India Co. 137 (*Sorex caudatus*
= *Soriculus*)

Gray 1846
Cat. Hodgson Coll. B. M. 4. (*Vespertilis muricora*
= *Hypotis mystacinus*)

Temminck 1835
Mon. Mamm. 2: 30 (*Rhinolophus rouxi*)

◦ Ogilby 1839
Royle's Ill. Botany Himalaya 1x19 pl. 4
(*Lepomyx roylei*)
= *Belantsea*

~~Anderson 1877
J. Asiat. Soc. Bengal 46(2): 262 (*Chimarragal*)~~

◦ Lindsay 1929
J. Boulog N. H. Soc. 33: 326 (1x11 *Crocidura*
9 review)

Hodgson 1843
J. Asiat. Soc. Bengal 12: 414 (*Rhinolophus perniger*)

Blyth 1844
J. Asiat. Soc. Bengal, 13: 485 (*Rhinolophus macrotis*)
" 13: 486 (" *subfasciatus*)

① Anderson 1877
J. Asiatic Soc. Bengal. 46: 279 (*Crocidura pygmaeaoides*)
" 46: 281 = *Suncus*
46: 262 (*Crocidura rubricosa*)
(*Chimarrogale*)

• Hinton, M.A. C. 1922
J. Bombay N. H. Soc., 28: 1052-1055 (*Soriculus nigrescens centralis*)

Thomas 1915
J. Bombay N.H. Soc. 24: 70 (*Pipistrellus tataru*)

① V Hodgson 1841
Calcutta J. N.H. 2: 221 (*Talpa micrura*)

Anderson 1905
P. Z. S. 2: 103 (*Rhinolophus affinis himalayensis*)

① Horsfield 1855.
Ann. Mag. N.H. 16: 111 (*Soriculus leucopus*)
" 16: 102 (*Vespertilio silgorensis*)
= *Myotis*

Hodgson 1855
Ann. Mag. N.H. 16: 103 (*Plecotus darjelingensis*)
= *Barbastella*

○ Thomas, O. and M.A. Hinton 1922.
Ann. Mag. N.H. (9) 9: 178-186 (*Ochotona wolhastoni*)

① V Gray 1842
Ann. Mag. N.H. 10: 261 (*Crossopus himalayicus*)
= *Chimarrogale*

Desmarest 1820
Encycl. Méth. Mamm. 1: 110 (*Pteropus lichenaulti*)
= *Rousettus*

○ Hodgson 1835
J. Asiat. Soc. Bengal 4: 699 (*Hippocideros armiger*)
" " (*Rhinolophus traquatus*)
" 4: 700 (*Pteropus leucocephalus*)
" " (*Vespertilio formosa*)
= *Myotis*
" " (*Vespertilio labiata*)
= *Myotis*
" " (*Vespertilio fuliginosa*)
= *Miniopterus*

✓ Biswas, B. and Khajuria, H. 1955.
Zoological results of the 'Daily Mail' Himalayan Expedition 1954. Four new mammals from Kumbu, eastern Nepal. P. Z. S., Calcutta, 8: 25-30

✓ Ellerman, J. R. 1947
^{copy to}
The Rodentia inhabiting India, Burma and Ceylon (based on the collection of British Museum) J. Mamm. 28: 249-278. 357-387 copy.

○ Hinton, M. A. C. 1922
Scientific results from the Mammal Survey. No. XXXIII. Note on *Soriculus nigrescens* and its subspecies. J. Bombay Nat. Hist. Soc., 28: 1052-1055

① ✓ Thomas, O. and Hinton, M. A. C. 1922.
The mammals of 1921 Mount Everest Expedition Ann. Mag. Nat. Hist. (9) 9: 178-186. (現. 東京大学)

✓ The fauna of India including Pakistan, Burma and Ceylon. Mammalia vol III Pt I and II 1961 J. R. Ellerman (The Manager of Publications, Delhi) Rs 96.0

✓ The book of Indian animals S. H. Prater 2nd ed. 1965 (Bombay Nat. Hist. Soc. and Prince of Wales Museum of western India)

ヒマラヤ雪男踏査の結果報告

小川 鼎三 昭和25年

日本人獣学会. 日本民族学協会連合大会. 特別講演.

9月15日紀事29頁

✓ Zoological results of the 'Daily Mail' Himalayan Expedition, 1954. Notes on some mammals of Kumbu, eastern Nepal. B. Biswas and K. Khajuria 1957 P. Z. S., Calcutta, Mookerjee Memor. Vol. 229-253



PASSENGER'S POSSESSION LIST

Ship's Name.....H. S. "NIKKO MARU" At the port of GOA

Flag.....J A P A N Date:

Passenger's Name: Hisashi Abe Passport No. B 020593

Purpose of Travel: Biological study trip in the Central Nepal.

Occupation: Assistant of Hokkaido University, Japan.

No.	Articles	Quantity & Value
A. Daily necessities, Clothes, Stationary articles.		
1.	Transister radio set (Hitachi).....	1 (\$ 3,600)
2.	Electric torch.....	1
3.	Wrist watch.....	2 (\$ 10,000)
4.	Rain coat.....	1
5.	Rubber boots.....	1
6.	Mosquito net.....	1
7.	Magic ink pen.....	1
8.	Chair.....	2
9.	Lock.....	1
10.	Fork.....	1
11.	SPOON.....	1
12.	Soap.....	1
13.	Lighter.....	2
14.	Flints for lighter.....	10
15.	Lighter oil.....	1
16.	Sun glasses.....	1
17.	Pencil.....	1
18.	Ball point pen (three colors).....	3
19.	Leather belt.....	15
20.	Ink sparr.....	1
21.	Mosquito coil.....	12
22.	Cotton string.....	3
23.	Snore string.....	1
24.	Note book.....	4
25.	Field note book.....	17
26.	Typewriting paper.....	15
27.	Carbon paper.....	1
28.	Airmail pad.....	4
29.	Envelope.....	20
30.	Map.....	Some sheets
31.	Book.....	5
32.	Match (small box).....	33
33.	Rucksack.....	1
34.	Water bottle.....	1
35.	Toilet paper.....	1

Hisashi Abe

Signature of Passenger.

Signature of Master W. S. Nikko Maru

No.	Articles	Quantity & Value
36.	Polyethylen bag.....	Some sheets
37.	Geta.....	1
38.	Daikaku eye lotion.....	3
39.	Fountain pen.....	1
40.	Jack coat.....	1
41.	Trousers.....	2
42.	Long pants.....	3
43.	Neck-tie.....	3
44.	Shirts.....	3
45.	Underwear.....	6
46.	Pants.....	3
47.	Sport shirts.....	2
48.	Jumper.....	1
49.	Socks.....	6
50.	Handkerchief.....	4
51.	Towel.....	3
52.	Washing bag (tooth brush, soap, tooth paste, comb, mirror, shaving razor, shampoo).....	1 set
53.	Cap.....	2
54.	Knitting machine.....	1 (* 15,120)
E. Articles for Biological Study.		
1.	Camera (Nikon-F, No. 6728254).....	1 (* 35,000)
2.	" (Asahi pentax, No. 1039201).....	1 (* 30,000)
3.	Lens (Takumar 135mm, F 3.5, NO. 34622).....	1 (* 7,000)
4.	" (Telle-Lakumar 400mm, F 5.6, No. 1097230).....	1 (* 30,000)
5.	Photometer (Sekonic).....	1 (* 3,000)
6.	Remote controller set.....	1 (* 2,000)
7.	Extension tube.....	1
8.	Lens cap (set).....	1
9.	GLF.....	1
10.	Lower.....	1
11.	Air releaser.....	1
12.	Lens hood.....	2
13.	Filter.....	2
14.	Lens brush.....	1
15.	Lens creamer.....	3
16.	Dry battery Um-1.....	3
17.	Dry battery Um-3.....	8
18.	Velvet cloth.....	1
19.	Film (35mm, color).....	17
20.	" (35mm, black & white).....	21
21.	Dark bag.....	1 (* 10,000)
22.	Binoocular (Nikon).....	1
23.	Monse trap.....	20
24.	Convex rule.....	1
25.	Razor.....	2
26.	Surgical knife.....	1
27.	Knife.....	1
28.	Tweezers.....	4
29.	Stapler.....	1
30.	Staple.....	1 Box
31.	Balance.....	1
32.	Scissors.....	3
33.	Fountain pen.....	1
34.	Needle holder.....	1
35.	Numbered film.....	3

No.	Articles	Quantity & Value
36.	Small label.....	50
37.	Cotton string.....	3
38.	Tape.....	2
39.	Rule (24 cm).....	1
40.	Cutter and blades.....	1
41.	Brush.....	2
42.	Pencil.....	4
43.	Needle.....	30
44.	Magnifier.....	1
45.	Ink.....	1
46.	Pin.....	1 can
47.	Small bottle.....	1
48.	Label for rat specimens.....	50
49.	Glass tube.....	18
50.	Rorax.....	1
51.	Cloroform.....	1
52.	Small paper bag.....	100
53.	Compass.....	2
54.	Altimeter.....	1 (* 4,800)
55.	Siccarol.....	1
56.	Formalin.....	1
57.	Thermometer.....	2
58.	Scientific paper and Photo (copy).....	some sheets
59.	Scientific paper.....	2
60.	Fishing string with hook.....	1

C. Medicines for trip member's health.

1.	Kanamycin.....	20 capsules
2.	Rondomylin.....	60 "
3.	Tetralsyl.....	20 "
4.	Enaform.....	90 tablets
5.	Sanryo digestive.....	40 "
6.	Popon-3.....	20 "
7.	Sinnl.....	30 "
8.	Palmporan.....	100 "
9.	Efortil.....	55 "
10.	Buscopan.....	30 "
11.	Bufferin.....	20 "
12.	Sinomin.....	20 "
13.	Clamin.....	40 "
14.	Aspirin.....	10 "
15.	Saridon.....	10 "
16.	Resochin.....	4 "
17.	Sedes.....	24 "
18.	Biscaine powder.....	1.5 x 3g
19.	Jintan.....	15 x 6
20.	Eurax-H.....	1 box
21.	Aronine ointment.....	6 tube
22.	Rinderon-VA.....	2 "
23.	Hibitane antiseptic cream.....	2 "
24.	Varsan repellent.....	2 "
25.	Salonpas plaster.....	1 "
26.	Derpat bandage.....	2 box
27.	Clinical thermometer.....	1 "

D. Article of luxury

1.	Tobacco (Peace).....	300 pieces
----	----------------------	------------

□□□-□□

北恒市北三至西八丁
抱狗園曰以大博狗作

阿部永探

11
22

創設市香拜如
正高宏之

1. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 2. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 3. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 4. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 5. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...

1

2

3

4

6. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 7. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 8. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 9. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...
 10. 關於... 之... 問題... 已... 解決... 矣...

採集

採集書受取、付出。

以下の調査以外へ出たものは、採集手厚くの中へ採集した。

Nepalの調査は整理の用下商店休業で、採集の手がつかない地へで、充分な数を知らずに出た心苦しい。

以下、採集程度の調査を許し、採集は、足つきのものは、採集した。
 採集量以上の採集は、採集した。

。捕獲以上の採集は、採集した。

26 種

90 種 (巨種)

2/2 個体

最も多いのは Scavenger or Egyptian vulture (エジプトのケワシ・Pochon) と、

2つ目は Fire breasted flowerpecker (ヒメホシホシ)。全身スカーレットの Scarlet
 finch, 青い首の Grandala (ヒメホシ), 青・黄・赤・黒の Blue throated barbet

(エジプトの鳥), 尾の黒い長く赤黄色の尾の Sunbird (7つ目の鳥), ~~Endemic~~ Endemic Babbler (4つ目の鳥) 採集した。

尾の黒い ~~Red~~ Red billed blue magpie (7つ目の鳥) と黒色の Drongo (8つ目の鳥)

◦ 日本の鳥通種 (捕獲地不明)

スズメ, ニシキアヒスズメ, ハクセキレイ, クリウグラス, ヤマビト, カワビト, コノハクワバシ,
キバシ 等の 約 8 種

◦ 観察数

おおよそ 150 種

そのうち日本の鳥通種と思われぬもの (亜種は別) として

キバシ, トビ, ヤマカモメ, キリノハシロ, コノハクワバシ, キバシ, カワバシ,
ワカバシ, ヒメバシ, ~~キバシ~~, ホシウグラス, ヌビ, マササギ 等地

計約 15 種程度

観察地不明のものとして 各種 vulture (コノハクワバシ, クロハクワバシ etc.)

ヤケイ, カササギ (Racket-tailed drongo), Tailor bird, 九官鳥,
コノハクワバシ, ニシキアヒスズメ, ~~キバシ~~ (Koel) etc.

◦ New record 年々増加していると思われるものとして 近年に初めて見られたもの (恐らく不明のもの) Girardinia a 4/60m 沖合の青い島 Girandala

Girandala coelicolor Hodgson 1843 以降 1964 年まで

報告の採集例（観察例は別）は分採です。

- 鳥類は Oriental region の特色を呈し、日本 (Palearctic) の鳥類は明確な相異を認められ近縁性は乏しいと見られる。

鳥類種数は Brown's list による 772 種に達している。日本の 560 種に種数が多い。そのうち水禽類は比較的少ない。樹上鳥類は日本の約 2 倍に達している。そのうち日本に全く見られる。逆に Nepal に最も多く（種数及び種数とも）、その種数は、並に生態的にも多様性を示しているもの Timalidae (Muscicapidae): Babbler: 4 種に達している。

鳴きの顕著なものがある (Sibia: 2 種、4 種、Laughing thrush の 2 種)。そのうち Nepal と日本の鳥類の遠い感があるものがある。

Low. 南の低地 (Terai) には上記の群生帯の Tropical 気候に似て、北へ行くと Palearctic region の属の鳥類が現れる傾向。例年樹林や裸地には (例年 7 月 4 日附近) 赤い鳥類も生息している。

Palearctic と Oriental の境界領域となる。

○ 今回旅行中、10校の研究所調査に設定し ~~資料~~ 10件程度集
 る予定。但し行方不明で1-2校整理のため、割愛する。これ、従来
 Nepalの鳥の調査は採集の鳥の調査の分類記載の報告は少ないが、
 今回の調査で生きた鳥の知見も多少得られると考へる。更に鳴き声の record
 の野外での識別法を ~~研究~~ している。今後 Nepalでの調査調査
 の予備調査、役にたつ材料を収集する。

以上如くである。行程表は右前記のとおりである。なお、現在おいて、
 動物の調査は、7月10日以前に済ませ、以後は多量に集める予定
 である。